

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	<p><b>【授業の主題】</b>  「特別研究」の遂行および将来の専門職として求められる高度な ICT 活用能力を養う。  効率的な情報管理、生成 AI の倫理的かつ効果的な活用方法を学ぶ。  Canva や Adobe Premiere Pro を用いたクリエイティブな表現技術を習得する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別研究に必要な文献検索能力、および論文執筆に必要な Word の高度な編集機能を習得する。</li> <li>・データ活用: アンケート調査の設計から Web での集計・分析、可視化までを一貫して行える。</li> <li>・AI リテラシー: 生成 AI を研究や業務の補助ツールとして適切に活用できる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>【第1部: AI 活用と情報収集・管理】</b> オリエンテーションと生成 AI の活用  生成 AI (ChatGPT/Gemini 等) の基礎知識とプロンプトエンジニアリング  研究テーマ探しやアイデア出しにおける AI 活用法と倫理的注意点</li> <li>2. 特別研究のための学術情報検索術: CiNii、J-STAGE、Google Scholar 等のデータベース活用  キーワード選定のコツと検索コマンド文献管理の基礎 (引用のルール)</li> <li>3. Google Workspace によるクラウド活用: Google ドライブによるデータ管理と共有  ドキュメント・スプレッドシートの共同編集機能、タスク管理とスケジュール管理</li> <li>4. <b>【第2部: Web 調査と分析】</b> Web アンケートの設計と実施 (Google フォーム)  調査目的に合わせた設問設計 (保育現場・マーケティング調査等を想定)  Google フォームの作成と条件分岐等の設定</li> <li>5. データの集計と分析 (Google スプレッドシート)、回答データの書き出しとクリーニング  ピボットテーブルや関数を用いた基礎集計グラフ作成による可視化</li> <li>6. 調査結果の Web 公開 (Google サイト)  Google サイトを用いたポートフォリオや調査報告サイトの構築、  分析結果 (グラフ) の埋め込みとプレゼンテーション</li> <li>7. <b>【第3部: デザインとマルチメディア表現】</b>  デザインの基礎とブランディング (Canva 1)、デザインの 4 原則 (近接・整列・反復・コントラスト)、  Canva の基本操作と名刺作成 (自己 PR・パーソナルブランディング)</li> <li>8. 広報物の作成 (Canva 2)  目的に応じたチラシ・ポスター作成、保育: 園だより、行事ポスター AI 画像生成機能の活用</li> <li>9. 動画編集の理論と Adobe Premiere Pro 入門  動画制作のフローと絵コンテ作成、Premiere Pro のインターフェースと基本操作</li> <li>10. 動画編集 実践1 (カット・トランジション)  素材の取り込みとカット編集、シーン切り替えの演出 (トランジション)</li> <li>11. 動画編集 実践2 (テロップ・BGM・書き出し)  テロップ (字幕) のデザインとアニメーション、音量調整と BGM・ナレーションの挿入、用途に合わせた動画の書き出し (YouTube 用、Instagram 用など)</li> <li>12. <b>【第4部: 特別研究論文の執筆技術】</b>  長文ドキュメントの構造化 (Word 1): 「スタイル」機能の徹底活用 (見出し1、見出し2等の設定)  アウトライン機能を使った論文構成の整理</li> <li>13. 論文の体裁と自動化 (Word 2): 目次の自動作成と更新 図表番号の挿入と相互参照 (本文中で図表  番号がずれないようにする)  ヘッダー・フッターとページ番号のセクション区切り (表紙に番号を振らない設定など)</li> <li>14. 引用・参考文献と校閲 (Word 3): 参考文献リストの作成ルールと管理機能  校閲機能 (変更履歴の記録・コメント) の使い方 脚注の挿入方法</li> <li>15. 最終課題制作・総括: 学習したスキルを統合した成果物の最終調整 授業の振り返りと質疑応答</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	特定の教科書は使用せず、毎回オリジナルのレジюмеや Web 上の最新ドキュメントを使用します。 必要に応じて、Adobe Premiere Pro や Canva の公式チュートリアルを参照します。				
事 前 学 習 の 内 容	各回のテーマに関連する資料 (LMS 等で配布) に目を通し、使用するツールのログイン確認を行っておくこと。				
事 後 学 習 の 内 容	授業内で完了しなかった制作物の続きを行い、各ツールのショートカットキーなどを定着させること。				
評 価 の 方 法 基 準	基礎課題 (20%)、応用課題 (50%)、総合課題 (30%)				
履 修 上 の 注 意	授業では Google アカウント (大学付与) を使用します。パスワード管理を徹底してください。 生成 AI の利用については、大学および授業の方針 (補助ツールとしての利用など) を遵守してください。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	全 円子		
授 業 科 目	国語表現法演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b> 話しことば、書きことばの両面から日本語の効果的な表現方法を学ぶことによって、実践力を養う。話しことばの面では、基本的なことからについて理解を深めるだけでなく、スピーチ力や電話応対力を身に付けることが可能となる。書きことばの面では、小論文・レポート・レジュメ・手紙を書く上で望ましい文章表現について確認し実作することで、文章表現力の向上が可能となる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 話しことばについては、ディベートも体験することで、コミュニケーション能力を高めるだけでなく、論理的に話す能力を身につける。書きことばについては、社会人になった時、現場で対応できる文章力を実作を通して確認する。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバス説明、ポートフォリオについての説明、第1課（日本語の話し方 振り返り）</li> <li>2. 第1課（日本語の話し方 本文）</li> <li>3. 第4課（スピーチをしよう）</li> <li>4. 自己PR（第1グループ）、第2課（日本語の表記 振り返り）</li> <li>5. 自己PR（第2グループ）、第2課（日本語の表記 本文）</li> <li>6. 自己PR（第3グループ）、第3課（文章表現と文章構成 振り返り）</li> <li>7. 自己PR（第4グループ）、第3課（文章表現と文章構成 本文）</li> <li>8. 自己PR（第5グループ）、第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 振り返り）</li> <li>9. 第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 本文）</li> <li>10. 第6課（敬語を学ぼう 振り返り 本文）</li> <li>11. 第6課（敬語を学ぼう 練習問題）</li> <li>12. 第7課（手紙を書こう 振り返り 本文）</li> <li>13. 第8課（電話をかけよう 振り返り 本文）</li> <li>14. 第9課（ディベートをしよう 振り返り 本文）</li> <li>15. 第9課（ディベートをしよう 実践） 自己評価 他者評価</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>テキスト 『改訂新版 基礎から学ぶ日本語表現法』（山根智恵・久木田恵、大学教育出版）</p> <p>参考図書 『敬語再入門』（菊池康人、講談社学術文庫）</p> <p>『新しい国語表記ハンドブック第8版』（三省堂編修所編、三省堂）</p> <p>『大学生と留学生のための論文ワークブック』（浜田麻里他、くろしお出版）</p>				
事前学習の内容	課題とする文章表現について調べる。				
事後学習の内容	毎回授業後に出された課題を、原則次の授業までに行い、提出する。				
評 価 の 方 法 基 準	学修ミニレポートなど授業への取り組み（10%） ポートフォリオ（90%）（1～9課 各課10%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	スポーツ1	科目区分	関連科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	実技	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>  様々なスポーツの実践を通じて、体力の向上を図り、健康を保持増進しようとする意欲や態度を身につける。これまでに体育等であまり経験することのなかったスポーツを主に実践する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・運動の意義について理解できる。</li> <li>・各種スポーツのルール等を理解し、実践することができる。</li> <li>・各種スポーツの特性を理解し、体力の保持増進に取り組むことができる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、バグギー</li> <li>2. ピロポロ</li> <li>3. インディアカ</li> <li>4. ミニテニス①：基礎的技能の練習</li> <li>5. ミニテニス②：応用的技能の練習</li> <li>6. ミニテニス③：ゲームとスキルテスト</li> <li>7. キックベースボール①：基礎的技能の練習</li> <li>8. キックベースボール②：応用的技能の練習</li> <li>9. キックベースボール③：ゲームとスキルテスト</li> <li>10. フラッグフットボール①：基礎的技能の練習</li> <li>11. フラッグフットボール②：応用的技能の練習</li> <li>12. フラッグフットボール③：ゲームとスキルテスト</li> <li>13. ビーチボール①：基礎的技能の練習</li> <li>14. ビーチボール②：応用的技能の練習</li> <li>15. ビーチボール③：ゲームとスキルテスト</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	『大学生のスポーツと健康生活』（福岡大学スポーツ科学部） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。 各種目の基本的なルールについて予習しておくこと。				
事後学習の内容	テキストや配布資料を見直すとともに、授業で扱った内容を復習すること。				
評価の方法基準	ワークシート（20%） スキルテスト（80%）				
履修上の注意	運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	スポーツ2	科目区分	関連科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実 技	開 講 時 期	2 年 次 ・ 後 期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>  様々なスポーツの実践を通じて、体力の向上を図り、健康を保持増進しようとする意欲や態度を身につける。ルールや用具を工夫し、これまでに体育等で経験してきたスポーツを主に実践する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種スポーツの知識・技能を身につける。</li> <li>・各種スポーツのルール等を理解し、実践することができる。</li> <li>・各種スポーツの特性を理解し、体力の保持増進に取り組むことができる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、体ほぐしの運動</li> <li>2. タグラグビー①：基礎的技術の練習</li> <li>3. タグラグビー②：ゲーム</li> <li>4. 卓球（シングルス）①：基礎的技術の練習</li> <li>5. 卓球（シングルス）②：応用的技術の練習</li> <li>6. 卓球（シングルス）③：ゲームとスキルテスト</li> <li>7. ティーボール①：基礎的技術の練習</li> <li>8. ティーボール②：応用的技術の練習</li> <li>9. ティーボール③：ゲームとスキルテスト</li> <li>10. バドミントン（シングルス）①：基礎的技術の練習</li> <li>11. バドミントン（シングルス）②：応用的技術の練習</li> <li>12. バドミントン（シングルス）③：ゲームとスキルテスト</li> <li>13. バスケットボール（3×3）①：基礎的技術の練習</li> <li>14. バスケットボール（3×3）②：応用的技術の練習</li> <li>15. バスケットボール（3×3）③：ゲームとスキルテスト</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『大学生のスポーツと健康生活』（福岡大学スポーツ科学部） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事 前 学 習 の 内 容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。 各種目の基本的なルールについて予習しておくこと。				
事 後 学 習 の 内 容	テキストや配布資料を見直すとともに、授業で扱った内容を復習すること。				
評 価 の 方 法 基 準	ワークシート（20%） スキルテスト（80%）				
履 修 上 の 意 注	運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松浦 加寿子・平岡 敦子・眞次 浩司		
授 業 科 目	ダイバーシティ論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年 次 ・ 後 期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>          本科目ではダイバーシティの可能性と課題について、異文化・国際、ジェンダー・セクシュアリティ、障がいの3つに焦点を当て多角的に学びを展開する。受講生は、ダイバーシティの観点から現代社会を理解し、自らの人生を組み立て、社会の中で如何に生きるべきかという問いを考察する。</p> <p><b>【到達目標】</b>          新しい社会理念として重視されているダイバーシティについて、具体的理解を深めることができる。          ・多様な価値観が存在する社会を知り、安全であることの意味を説明できる。(平岡)          ・社会における性と多様性の課題について、理解を深めることができる。(平岡)          ・映画を通して、多様な文化や価値観を理解し、自分の考えを表現できる。(松浦)          ・ダイバーシティの視点を保育実践に応用し、子どもにわかりやすく伝える表現を工夫できる。(松浦)          ・ニューロダイバーシティ(脳の多様性)の考え方について説明できる。(眞次)          ・内側から人を理解することの意味を説明できる(眞次)</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>『ズートピア』ダイバーシティの導入―偏見はなぜ生まれるのか (担当：松浦・平岡・眞次)</li> <li>『美女と野獣』言語と文化―言葉に込められたニュアンス (担当：松浦)</li> <li>『塔の上のラプンツェル』親子関係と主体性―愛情と支配の違い (担当：松浦)</li> <li>『リロ&amp;スティッチ』家族の多様性―居場所をつくること (担当：松浦)</li> <li>まとめと保育実践への応用 (担当：松浦)</li> <li>日常の中の『心理的安全性』と『多様性』と『アンコンシャスバイアス』 (担当：平岡)</li> <li>性について①『性』とその発達 (担当：平岡)</li> <li>性について②『セクシュアリティ』と『ジェンダー』と『アイデンティティ』 (担当：平岡)</li> <li>性別や性自認、性的指向～「これって尊重？偏見？」「これって誰の問題？」 (担当：平岡)</li> <li>こどもの社会における『多様な性』の課題(グループワーク) (担当：平岡)</li> <li>ニューロマイノリティ(脳の多様性)とは何か (担当：眞次)</li> <li>「発達障がい」とニューロダイバーティ―支援者の常識を変える①― (担当：眞次)</li> <li>「普通」の子育てとは何か―支援者の常識を変える②― (担当：眞次)</li> <li>ニューロマイノリティの体験世界 (担当：眞次)</li> <li>まとめ―内側から人を理解するということ― (担当：眞次)</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>&lt;参考文献&gt;          ユネスコ編(2022)『国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】科学的根拠に基づいたアプローチ』明石書店(平岡)          五十嵐淳子(2019)『多文化理解・国際理解への学び 多様性の尊重を目指して』大学図書出版(松浦)          横道誠・他(2024)『ニューロマイノリティ』北大路書房(眞次)          その他、適宜、担当教員が資料を作成・配布する。</p>				
事 前 学 習 の 内 容	<p>授業内で用いられることば(授業前に「Google Classroom」にアップ予定)の意味について調べておく(平岡)          各回で扱う映画について、あらすじや主要キャラクターを調べておくことが望ましい。(松浦)          授業前に「Google Classroom」にアップした資料を読んでおく。(眞次)</p>				
事 後 学 習 の 内 容	<p>映画の中で印象に残ったセリフや場面を授業後に振り返り、次回のワークシートやディスカッションに活かすこと。(松浦)          授業後期限内に「Google Classroom」へ課題(「授業で学んだこと」「感想や疑問」等)を提出する。(平岡・眞次)</p>				
評 価 の 方 法 基 準	<p>担当教員毎に評価の方法・基準は、以下の通りである。担当教員毎に課した課題の評価を合計して行う。          授業後に提出する課題をS(4点)～D(0点)の5段階で評価する。(松浦・平岡・眞次)</p>				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	生活福祉論	科目区分	関連科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 社会福祉の意義や法制度について学ぶとともに、生活者の視点から、社会福祉の現状と課題について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の意義について理解する。</li> <li>・社会福祉の法制度について理解する。</li> <li>・社会福祉の現状と課題について理解する。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と社会福祉</li> <li>2. 社会福祉と関連法</li> <li>3. 子ども家庭福祉の現状</li> <li>4. 子ども家庭福祉の課題</li> <li>5. 社会保障制度の現状</li> <li>6. 社会保障制度の課題</li> <li>7. 障がい児・者福祉の現状</li> <li>8. 障がい児・者福祉の課題</li> <li>9. 地域福祉の現状</li> <li>10. 地域福祉の課題</li> <li>11. 低所得者の福祉の現状</li> <li>12. 低所得者の福祉の課題</li> <li>13. ソーシャルワーク</li> <li>14. 高齢者福祉の現状</li> <li>15. 高齢者福祉の課題</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	直島正樹・原田旬哉編著『図解で学ぶ保育 社会福祉 (第3版)』萌文書林 2022年 必要に応じて資料を配布する。				
事前学習の内容	テキストの該当部分を読み、概要を把握しておくこと。 授業の中で、発表が必要な事柄についてレポートを提出すること。				
事後学習の内容	授業中のノートや配布資料を見直し、要点を把握しておくこと。 発表に関するコメントシートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	発表 (10%)、レポート (50%)、コメントシート (40%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	小野 力		
授 業 科 目	造形表現論	科目区分	関連科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期（隔年）
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の本専攻科修了論文あるいは、その他デザイン学系論文を中心に紹介しながら、学術論文作成に係る資料収集方法および、整理と資料のまとめ方について考える。</li> <li>受講者が輪番でデザイン学系論文読解と紹介を行ない、各回のテーマに沿った発表と議論を行なう。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くのデザイン学系研究に触れることにより学術論文に慣れる。</li> <li>発表演習と議論を通じて研究発表会における実践的な思考力を身につける。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本授業の概要説明、論文構成の図解・図示方法解説</li> <li>2. 「デザインの理論と思考」に関する論文紹介と、担当受講者および発表スケジュール決定</li> <li>3. 受講者による事例紹介と討議 - 1 (デザイン思考)</li> <li>4. 受講者による事例紹介と討議 - 2 (ヒューマンセンタードデザイン)</li> <li>5. 受講者による事例紹介と討議 - 3 (スペキュラティブデザイン)</li> <li>6. 受講者による事例紹介と討議 - 4 (アフォーダンス)</li> <li>7. 受講者による事例紹介と討議 - 5 (デザインリサーチ)</li> <li>8. 「デザインの実践領域と応用」に関する論文紹介と、担当受講者および発表スケジュール決定</li> <li>9. 受講者による事例紹介と討議 - 6 (UX デザイン)</li> <li>10. 受講者による事例紹介と討議 - 7 (インクルーシブデザイン)</li> <li>11. 受講者による事例紹介と討議 - 8 (サービスデザイン)</li> <li>12. 受講者による事例紹介と討議 - 9 (AI・データ駆動型デザイン)</li> <li>13. 受講者による事例紹介と討議 - 10 (サステナビリティ)</li> <li>14. デザイン学系以外の論文紹介</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol> <p>・第15回目授業の「試験」は授業時間の一部（30分程度）を用いた記述式試験である。</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書；『図解作成の基本』（すばる舎）				
事 前 学 習 の 内 容	前回授業の内容を復習しておくこと。 本講義時間外で、各自担当分の論文を発表するスライドを準備する。				
事 後 学 習 の 内 容	他の受講者の発表内容を復習しておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	発表（60%）、試験（40%）				
履 修 上 の 意 注	履修者の学修状況によっては内容（事例収集に係るデータ収集方法等）を若干変更する場合がある。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	小野 力 (実務経験あり)		
授 業 科 目	立体制作論	科目区分	関連科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>          プロダクトデザインについて基礎知識と独自の視点を養い、比較・検討・議論を行う。          プロダクトデザインに関係する材料の特性や加工技術の知識を身につける。          講義後半では基本的な作品制作を課題とし、立体制作および画像を交えたプレゼンテーションを行う。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロダクトデザイン及びモデル制作の必要性や手法を理解する。</li> <li>・自身で立案するコンセプトに沿うモデル制作が出来る。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要説明、プロダクトデザインにおける立体制作とは</li> <li>2. 形の見方と考え方 (デザインの基本要素・形状分析のワーク)</li> <li>3. デザインプロセスの説明</li> <li>4. 材料の特性と加工技術 - 1 (木材)</li> <li>5. 材料の特性と加工技術 - 2 (金属)</li> <li>6. 材料の特性と加工技術 - 3 (樹脂、ウレタン、他)</li> <li>7. モデル制作の意味と種類</li> <li>8. バターナイフ制作 - 1 (概要説明・切り出し)</li> <li>9. バターナイフ制作 - 2 (粗削り・研磨)</li> <li>10. バターナイフ制作 - 3 (研磨・仕上げ)</li> <li>11. アパレル什器のモデル制作課題 - 1 (テーマ設定・コンセプトメイク)</li> <li>12. アパレル什器のモデル制作課題 - 2 (アイデアスケッチ)</li> <li>13. アパレル什器のモデル制作課題 - 3 (モデル製作) (作業に余裕のある場合に限り、硬化、塗装を実施する。)</li> <li>14. アパレル什器のモデルプレゼンテーション資料準備</li> <li>15. アパレル什器のモデルプレゼンテーション、講評</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業でのプロダクトデザイン開発経験を生かし、製品開発検討に係る実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『プロダクトデザイン[改訂版]』(BNN) 参考図書：『モデリングテクニク』(グラフィック社)				
事前学習の内容	前回授業の内容を復習しておくこと。				
事後学習の内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までに完成させておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	中間制作 (30%)、作品プレゼンテーション (70%)				
履 修 上 の 意 注					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	別府 祐子		
授 業 科 目	幼児の音楽遊び演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b> 音楽表現に関して、幼児の発達を理解した上で、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な遊びについて実践的に学び、表現活動を支えるための知識・技能、及び表現力を身につける。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の音楽表現の姿や、その発達を理解する。</li> <li>・ 様々な音楽表現を通して、その楽しさを感じるとともに、表現力を豊かにする。また、楽しさの要因について分析することができる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音を介した環境との対話 サウンドウォーク (学外授業)</li> <li>2. 音の可能性を探る</li> <li>3. 声・音で表現する</li> <li>4. 音を描く</li> <li>5. 描いたイメージを音で表現する</li> <li>6. 「音」を感じる絵本</li> <li>7. 音楽と動き</li> <li>8. アフォーダンスの視点からの楽器遊び</li> <li>9. 身近なモノを使って音楽をつくろう</li> <li>10. 音のイメージを表現する手作り楽器</li> <li>11. トーンチャイムを使った遊び</li> <li>12. アンサンブルの楽しみとは？</li> <li>13. アンサンブルを楽しもう</li> <li>14. 演奏会</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	石井玲子編著『表現者を育てるための保育内容『音楽表現』—音遊びから音楽表現へ—』教育情報出版、佐藤雄紀・野口雅史監修・著 栄長敬子他著『うたのミックスジュース こどものうた 242』圭文社、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』				
事前学習の内容	テキストの該当箇所を熟読することで予習を行い、疑問点等について明確にしておく。				
事後学習の内容	授業での学びについて、ポートフォリオに記録する。テキストや関連図書で、復習を行う。				
評 価 の 方 法 基 準	ポートフォリオ (70%)、レポート課題 (30%)				
履 修 上 の 意 注	学外授業を行う場合がある。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	別府 祐子		
授 業 科 目	幼児の音楽遊び演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・後期 (隔年)
授 業 の 主 題 目 標	<p><b>【授業の主題】</b>          幼児の音楽遊びについて考える上で重要な音・音楽のコミュニケーションな側面の働きについて知り、それが子どものコミュニケーションの中でいかに発揮されるのか、文献講読、観察、及び議論を通して理解することで、子どもの人間関係を捉える新たな視座を得る。</p> <p><b>【到達目標】</b>          ・音・音楽のコミュニケーションな側面について理解する。          ・子どもが、音や音楽を用いて他者と関係性を構築しようとする様相を見とったうえで、子どもにとっての音楽とコミュニケーションとの関係について丁寧に考察することができる。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「コミュニケーション」とは</li> <li>2. コミュニケーションの発達</li> <li>3. 子どものコミュニケーションの実際：①事例観察</li> <li>4. 子どものコミュニケーションの実際：②事例分析</li> <li>5. 子どもと音楽とコミュニケーションの実際：①事例観察</li> <li>6. 子どもと音楽とコミュニケーションの実際：②事例分析</li> <li>7. 音楽とコミュニケーション①音楽のコミュニケーションの側面</li> <li>8. 音楽とコミュニケーション②共振</li> <li>9. 音楽とコミュニケーション③「うたう」関係</li> <li>10. 音楽とコミュニケーション④Communicative Musicality</li> <li>11. 子どもと音楽とコミュニケーション：事例の再考察</li> <li>12. 子ども同士のコミュニケーション</li> <li>13. 子ども同士のコミュニケーションと音楽：①3 歳未満児</li> <li>14. 子ども同士のコミュニケーションと音楽：②3 歳以上児</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	今川恭子編著『わたしたちに音楽がある理由』音楽之友社 その他、参考図書、参照すべき論文等について、講義の中で適宜紹介する。				
事 前 学 習 の 内 容	事前に指定された範囲のテキスト、参考資料を熟読し、疑問点を明確にする。				
事 後 学 習 の 内 容	講義やディスカッションから考察したことについて、整理してまとめる。				
評 価 の 方 法 基 準	プレゼンテーション・ディスカッション (40%)、レポート課題 (60%)				
履 修 上 の 意 注	倉短ひろば“くららっこ”を利用した演習も行う。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	幼児の造形遊び演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期 2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>          身近素材と用具を用いた表現技法の総合的活用による作品製作を行う。素材の持つ感触と特性、用具の使用について考察し、幼児の造形活動における支援方法について理解を深める。また、壁面装飾をはじめとした保育環境での展示を通じて作品と鑑賞者、相互の視点について実践的に学習すると共に、幼児との関係について考察を行う。</p> <p><b>【到達目標】</b>          ・身近素材や用具を活かした表現技法を習得し、幼児の造形活動に対する適切な支援を理解する。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回オリエンテーション</li> <li>2. 四季の保育環境づくり (1) 壁面装飾 12 ヶ月 デザイン案</li> <li>3. 四季の保育環境づくり (2) 壁面装飾 12 ヶ月 原寸大下絵作成</li> <li>4. 四季の保育環境づくり (3) 壁面装飾 12 ヶ月 下地製作</li> <li>5. 四季の保育環境づくり (4) 壁面装飾 12 ヶ月 素材研究</li> <li>6. 四季の保育環境づくり (5) 壁面装飾 12 ヶ月 平面表現の検討</li> <li>7. 四季の保育環境づくり (6) 壁面装飾 12 ヶ月 立体表現技法の検討</li> <li>8. 四季の保育環境づくり (7) 壁面装飾 12 ヶ月 ICT 機器の活用・デザインのデータ化</li> <li>9. 四季の保育環境づくり (8) 壁面装飾 12 ヶ月 ICT 機器の活用・データから出力</li> <li>10. 四季の保育環境づくり (9) 壁面装飾 12 ヶ月 素材の接着・接着材の検討</li> <li>11. 四季の保育環境づくり (10) 壁面装飾 12 ヶ月 作品説明下書き</li> <li>12. 保育教材の製作 (1) 遊びのデザイン案</li> <li>13. 保育教材の製作 (2) 素材の検討</li> <li>14. 保育教材の製作 (3) 遊びの展開・指導法の考察</li> <li>15. 作品の発表と鑑賞 ICT 機器を用いた相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	榎 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林				
事 前 学 習 の 内 容	Classroom もしくはワークシートの二次元コードを介して配信する動画から予習を行うこと。				
事 後 学 習 の 内 容	作品とそのプロセスについて適宜写真撮影を行ない、ワークシートと共にポートフォリオを作成すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品評価 (60%)、ワークシート (40%)				
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵具等を使用する為、華美な服装を避け、必要に応じて工作用エプロンを着用すること。</li> <li>・準備物は前週の授業と Classroom より伝達する。</li> </ul>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁・小久保 圭一郎		
授 業 科 目	幼児の身体・運動遊び演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 後 期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>  様々な運動遊びのプログラムを観察・体験する中で、各プログラムの背景にある考え方や指導内容・方法を理解し、運動遊びの面から幼児の健康づくりについて理解を深める。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の運動発達や用具の特性について理解する。</li> <li>・ 運動遊びの指導内容および方法を適切に選択することができる。</li> <li>・ 幼児の運動発達や用具の特性に応じた指導を行うための実践力を身につける。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、自然環境に着目した運動遊び (担当：濱田)</li> <li>2. 多様な動きの習得を目指した指導プログラム：身近な素材を使った運動遊び (担当：濱田)</li> <li>3. 多様な動きの習得を目指した指導プログラム：用具を使った運動遊び (担当：濱田)</li> <li>4. 運動遊びとしての組体操・組立体操①：基本的な技 (担当：濱田)</li> <li>5. 運動遊びとしての組体操・組立体操②：集団演技 (担当：濱田)</li> <li>6. 用具を操作する動きを取り入れたマスゲームの考案①：技の選択と習得 (担当：濱田)</li> <li>7. 用具を操作する動きを取り入れたマスゲームの考案②：構成の確認と演技表の作成 (担当：濱田)</li> <li>8. 用具を操作する動きを取り入れたマスゲームの発表と相互評価 (担当：濱田)</li> <li>9. 幼児の運動能力の向上を目指した指導プログラム①：アクティブ・チャイルド・プログラム (担当：濱田)</li> <li>10. 幼児の運動能力の向上を目指した指導プログラム②：走能力に着目して (担当：濱田)</li> <li>11. 幼児の運動能力の向上を目指した指導プログラム③：跳能力に着目して (担当：濱田)</li> <li>12. 幼児の運動能力の向上を目指した指導プログラム④：投能力に着目して (担当：濱田)</li> <li>13. 親子に対する運動遊び指導の立案 (担当：濱田)</li> <li>14. 親子に対する運動遊び指導の実践 (担当：濱田・小久保)</li> <li>15. 親子に対する運動遊び指導の評価 (担当：濱田・小久保)</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館） 『保育と幼児期の運動あそび』（萌文書林） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	授業で扱う運動遊びの指導内容・方法について考えること。				
事後学習の内容	テキストや配布資料を見直すとともに、学んだ内容から教材研究を行うこと。				
評価の方法基準	ワークシート（50%）、マスゲームの発表（30%）、親子に対する運動遊び指導の実践（20%）				
履修上の注意	体育館で授業を行う際は、ジャージ等の運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	別府 祐子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	音楽指導法特別演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目 標	<p><b>【授業の主題】</b> 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、表現活動の中でも特に音楽表現について、乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された表現のねらい及び内容をおさえた上で、近年の保育実践の動向や、既存の音楽メソッド等をふまえて、より広い視点から、音楽に係る表現の多様なあり方を捉え、表現活動についての知見を深める。</li> <li>・これまでの学修を基礎として、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程をふまえて、より応用的・発展的に表現活動の具体的な指導場面を想定し、保育を構想・計画・指導・実践する力を高める。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表現のねらい及び内容と音楽表現についての再考</li> <li>2. 乳児の発達と音楽的表現 (具体的な事例や映像からの考察を含む) と指導の留意点・保育者の役割</li> <li>3. 幼児の発達と音楽的表現 (具体的な事例や映像からの考察を含む) と指導の留意点・保育者の役割</li> <li>4. 「聴く」ということについての視座</li> <li>5. 乳幼児の歌唱表現の特徴</li> <li>6. 乳幼児の歌唱指導/指導案の立案・検討 (1) 歌あそび (3 歳未満児を対象として)</li> <li>7. 模擬保育 (1) 歌あそび (3 歳未満児を対象として) / 模擬保育振り返り (録画映像による)</li> <li>8. 指導案の立案・検討 (2) 歌あそび (3 歳以上児を対象として)</li> <li>9. 模擬保育 (2) 歌あそび (3 歳以上児を対象として) / 模擬保育振り返り (録画映像による)</li> <li>10. 小括 (乳幼児の歌唱表現とその指導)</li> <li>11. ダルクローズの音楽教育</li> <li>12. 指導案の立案・検討 (3) 音楽と体の動きによる表現を取り入れた遊び</li> <li>13. 模擬保育 (3) 音楽と体の動きによる表現を取り入れた遊び/模擬保育振り返り (録画映像による)</li> <li>14. 表現活動における情報機器及び教材の活用について</li> <li>15. コダーイの音楽教育</li> <li>16. わらべうた</li> <li>17. 集団で遊ぶわらべうたの指導</li> <li>18. オルフの音楽教育</li> <li>19. 乳幼児と楽器とのかかわり及び楽器の扱い方</li> <li>20. 指導案の立案・検討 (4) ことば・動き・音楽</li> <li>21. 模擬保育 (4) ことば・動き・音楽/模擬保育振り返り (録画映像による)</li> <li>22. 秋の音の楽器づくり</li> <li>23. モンテッソーリの音楽教育</li> <li>24. 指導案の立案・検討 (5) 遊び</li> <li>25. 模擬保育 (5) 遊び/模擬保育振り返り (録画映像による)</li> <li>26. 地域の伝統と子どもと音楽</li> <li>27. レッジョ・エミリア・アプローチ</li> <li>28. 日本における乳幼児の音楽教育の史の変遷とこれからの表現のどうのあり方の現代的課題</li> <li>29. 幼児期の表現活動と小学校の教科との学連続性について</li> <li>30. 音楽表現の評価のあり方とは/音楽表現・その指導法の動向について</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	中学校音楽教諭としての実務経験を生かして、音楽に係る多様な表現のあり方や、豊かな表現を引き出すための指導法について、実践的な教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	石井玲子編著『表現者を育てるための保育内容『音楽表現』—音遊びから音楽表現へ—』教育情報出版、佐藤雄紀・野口雅史監修・著 栄長敬子他著『うたのミックスジュース こどものうた 242』圭文社、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』				
事前学習の内容	テキストの該当箇所を熟読し、予習を行い、疑問点等について明確にしておく。実技を伴う場合は事前練習を十分に行う。指導案作成や模擬保育を実施する授業回には、準備学習として教材研究を行う。				
事後学習の内容	テキストや関連図書で、復習を行う。指導案の検討や模擬保育を行った授業回では、アドバイスを受けた内容をまとめる等して、省察を十分に行っておく。				
評 価 の 方 法 基 準	グループ演習課題・プレゼンテーション課題 (35%)、指導案・模擬保育・模擬保育の振り返り (35%)、レポート課題 (30%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	別府 祐子		
授 業 科 目	音楽指導法特別演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	<p><b>【授業の主題】</b>  音楽指導法特別演習Ⅰでの学修を基礎に、乳幼児が音や音楽で表現をすることの意味を改めて問い直す。そのために、音楽表現を、乳幼児の発達、人間関係、遊びや生活の視点と関連づけて捉える。そのうえで、乳幼児の音楽表現指導の方法やその課題について、熟考する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の音楽表現や、その指導のあり方について、多様な視点から具体的かつ発展的に考察する。</li> <li>・保育・幼児教育における音楽表現の研究動向や課題を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</li> <li>・実践を通して保育を改善する視点を身につける。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの声や動きと音楽性</li> <li>2. 乳幼児の発達と歌 (1) 適正音域と移調、及び伴奏のあり方</li> <li>3. 乳幼児の発達と歌 (2) 遊びうたの創作</li> <li>4. 乳幼児の発達と歌 (3) 遊びうたを使った指導案の作成</li> <li>5. 乳幼児の発達と歌 (4) 遊びうたを使った指導実践と課題</li> <li>6. 絵本と音楽 (1) 絵本と音楽の関係</li> <li>7. 絵本と音楽 (2) 絵本の選定と構想</li> <li>8. 絵本と音楽 (3) 指導案の作成</li> <li>9. 絵本と音楽 (4) 模擬保育</li> <li>10. 絵本と音楽 (5) 指導と課題 (学外演習)</li> <li>11. 様々な素材と音楽表現 (1) 音楽表現における「様々な素材」とは？</li> <li>12. 様々な素材と音楽表現 (2) 音楽表現と ICT ツールの活用</li> <li>13. 様々な素材と音楽表現 (3) 素材と素材の組み合わせ</li> <li>14. 効果的な指導のための視覚的工夫と指導方法</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	石井玲子編著『表現者を育てるための保育内容『音楽表現』—音遊びから音楽表現へ—』教育情報出版、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』				
事 前 学 習 の 内 容	テキストの該当箇所を熟読することで予習を行い、疑問点等について明確にしておく。実技を伴う場合には、事前の練習を十分に行う。				
事 後 学 習 の 内 容	テキストや関連図書で、復習を行う。				
評 価 の 方 法 基 準	演習課題 (60%)、最終レポート課題 (40%)				
履 修 上 の 意 注	倉短ひろば“くららっこ”を利用した演習、保育園・幼稚園等の学外での演習を伴う。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	造形指導法特別演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>  「領域『表現』のねらいと内容」「保育者の援助姿勢」「幼児期の造形表現の在り方」を軸に造形技術を修得する。受講生は本演習の履修により(1)造形素材、機器及び道具の扱い方、(2)造形原理と子どもの造形発達段階の理解、(3)保育現場における造形表現の環境構成力を修得することができる。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児造形で実践する多種の題材について理解を深める。</li> <li>・ ICT 機器も含め、造形活動における新規的素材と活用について考察する。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回オリエンテーション、領域「表現」の造形のねらい及び内容について理解する</li> <li>2. 版の表現活動 (1) コラグラフ版画の製作、素材集め</li> <li>3. 版の表現活動 (2) アルミコーティングによるコラグラフ版の製作</li> <li>4. 版の表現活動 (3) ステンシルデザイン案</li> <li>5. 版の表現活動 (4) ステンシル版の製作</li> <li>6. 版の表現活動 (5) ステンシルによる布地への刷り</li> <li>7. 工作活動 (1) クランクによるおもちゃ作りデザイン案</li> <li>8. 工作活動 (2) クランクの構造の理解</li> <li>9. 工作活動 (3) クランクの工夫からデザインの発展</li> <li>10. 工作活動 (4) クランクによるおもちゃの製作</li> <li>11. ICTによる表現活動 (1) 割りピンによるおもちゃ作り</li> <li>12. ICTによる表現活動 (2) コマ撮りアニメーション、シナリオ製作</li> <li>13. ICTによる表現活動 (3) 割りピンのおもちゃの撮影</li> <li>14. ICTによる表現活動 (4) アニメーションの確認</li> <li>15. 鑑賞活動 ICTによる相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	榎 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林				
事前学習の内容	Classroom もしくはワークシートの二次元コードを介して配信する動画から予習を行うこと。				
事後学習の内容	作品とそのプロセスについて適宜写真撮影を行ない、ワークシートと共にポートフォリオを作成すること。				
評価の方法基準	作品評価 (60%)、ワークシート (40%)				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵具等を使用する為、華美な服装を避け、必要に応じて工作用エプロンを着用すること。</li> <li>・ 準備物は前週の授業と Classroom より伝達する。</li> </ul>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	造形指導法特別演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 目	<p><b>【授業の主題】</b>  幼児教育における造形表現の支援を目的に、自然環境も含め、多様な素材の特性とその性質を活用した教材の作成方法と知識、幼児への支援方法の獲得を目標とする。また、ICT 機器を使用した保育教材の製作と表現活動を通じて、今日的な教材製作の手法と表現について理解を深める。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児造形で使用する新規的な素材の使用方法を身につける。</li> <li>・ ICT を使用した錯視画像や保育教材の製作から今日的な表現活動への理解を深める。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回オリエンテーション</li> <li>2. 版の表現活動 (1) 孔版 (シルクスクリーン) デザイン案</li> <li>3. 版の表現活動 (2) スクリーン版の製作・はがきへの刷り</li> <li>4. 版の表現活動 (3) 孔版 (シルクスクリーン) による布地への刷り</li> <li>5. 錯視による表現活動 (1) 錯視による表現の解説</li> <li>6. 錯視による表現活動 (2) ICT 機器を活用した錯視画像の製作</li> <li>7. 工作活動 (1) ポップアップカードデザイン案</li> <li>8. 工作活動 (2) ポップアップの構造の理解</li> <li>9. 工作活動 (3) 製作物の活用と考察</li> <li>10. 工作活動 (4) 光と色彩の表現活動・投影の方法の考察</li> <li>11. 工作活動 (5) 光と色彩の表現活動・光の箱の製作</li> <li>12. 工作活動 (6) 光と色彩の表現活動・光の箱における遊びの検討</li> <li>13. 版の表現活動 (4) 平版 (キッチンリトグラフ) の描画</li> <li>14. 版の表現活動 (5) 平版 (キッチンリトグラフ) の刷り</li> <li>15. 鑑賞活動 ICT による相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	槇 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林				
事前学習の内容	Classroom もしくはワークシートの二次元コードを介して配信する動画から予習を行うこと。				
事後学習の内容	作品とそのプロセスについて適宜写真撮影を行ない、ワークシートと共にポートフォリオを作成すること。				
評価の方法基準	作品評価 (60%)、ワークシート (40%)				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵具等を使用する為、華美な服装を避け、必要に応じて工作用エプロンを着用すること。</li> <li>・ 準備物は前週の授業と Classroom より伝達する。</li> </ul>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	身体・運動指導法特別演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>          幼児の発達段階や遊具・用具の特性に基づき、運動遊びの計画、実践、評価を行う。運動遊びの考案と実践を通して、幼児期の運動遊びの適切な指導内容・方法について、体験的に理解を深める。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の発達段階を考慮した運動遊びを計画することができる。</li> <li>・ 運動遊び指導の実践を振り返り、改善する視点を身につける。</li> <li>・ 幼児の運動能力を測定、評価する方法について理解できる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、幼児期の運動能力の実態と保育・教育施設での効果的な取り組みの理解</li> <li>2. 過去の指導実践の紹介、担当回とペアの決定</li> <li>3. 5 歳児の発育・発達段階の理解、指導計画の作成方法</li> <li>4. 指導実践における内容や方法の検討：教材研究</li> <li>5. 指導計画の検討①：個別添削</li> <li>6. 指導計画の検討②：全体での確認</li> <li>7. 指導実践①に関する模擬保育の実践</li> <li>8. 指導実践①：ボールを使った運動遊び</li> <li>9. 指導実践①の振り返り、指導実践①で用いた内容や方法の応用</li> <li>10. 指導実践②に関する模擬保育の実践</li> <li>11. 指導実践②：走る動きを含む運動遊び</li> <li>12. 指導実践②の振り返り、指導実践②で用いた内容や方法の応用</li> <li>13. 指導実践③に関する模擬保育の実践</li> <li>14. 指導実践③：縄を使った運動遊び</li> <li>15. 指導実践③の振り返り、指導実践③で用いた内容や方法の応用</li> <li>16. 指導実践④に関する模擬保育の実践</li> <li>17. 指導実践④：フープ・マットを使った運動遊び</li> <li>18. 指導実践④の振り返り、指導実践④で用いた内容や方法の応用</li> <li>19. 指導実践⑤に関する模擬保育の実践</li> <li>20. 指導実践⑤：跳び箱・巧技台を使った運動遊び</li> <li>21. 指導実践⑤の振り返り、指導実践⑤で用いた内容や方法の応用</li> <li>22. 指導実践⑥に関する模擬保育の実践</li> <li>23. 指導実践⑥：鉄棒を使った運動遊び</li> <li>24. 指導実践⑥の振り返り、指導実践⑥で用いた内容や方法の応用</li> <li>25. 指導実践⑦に関する模擬保育の実践</li> <li>26. 指導実践⑦：サーキット遊び</li> <li>27. 指導実践⑦の振り返り、指導実践⑦で用いた内容や方法の応用</li> <li>28. 5 歳児に対する運動遊びの指導内容や方法のまとめ</li> <li>29. 幼児の運動能力の測定と評価①：測定・評価における基本的な考え方</li> <li>30. 幼児の運動能力の測定と評価②：MKS 幼児運動能力検査の内容と方法の体験的理解</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館） 『保育と幼児期の運動あそび』（萌文書林） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	テキスト等を用いて、運動遊びに関する教材研究を行うこと。 運動遊び指導の際に用いる遊具や用具、全体の環境の安全性を確認しておくこと。				
事後学習の内容	テキストや配布資料を見直すとともに、授業で扱った内容を復習すること。				
評 価 の 方 法 基 準	指導計画 (30%)、指導実践 (30%)、指導実践に対する反省・評価のレポート (20%)、 まとめのレポート (20%)				
履 修 上 の 意 注	体育館で授業を行う際は、ジャージ等の運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	劇指導法特別演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】  様々な要素が複合された総合的な表現である劇を主題として、乳幼児の感性と表現を育む保育者の役割と支援のあり方、関連する知識や技術を教授する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育内容の領域「表現」のうち、劇表現に関するものを主に、ねらい及び内容に対する理解を深める。</li> <li>・ 乳幼児の発達過程の各段階において、指導場面を想定した保育を構想し、実践する方法を身につける。</li> <li>・ 保育者に求められる劇表現に関する実践力を高め、表現活動を通して主体性と協調性を身につける。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、劇的活動を楽しむ</li> <li>2. 劇的活動の教育的意義：感性を育む</li> <li>3. 劇的活動の教育的意義：イメージを育む</li> <li>4. 劇的活動の教育的意義：表現を育む</li> <li>5. 劇的表現基礎演習 (1) 身体表現</li> <li>6. 劇的表現基礎演習 (2) 言語表現</li> <li>7. 劇的表現基礎演習 (3) 空間的表現</li> <li>8. 劇制作実践 (1) 計画と主題設定</li> <li>9. 劇制作実践 (2) 脚本と配役</li> <li>10. 劇制作実践 (3) 演技</li> <li>11. 劇制作実践 (4) 演出</li> <li>12. 劇制作実践 (5) 視覚的教材製作</li> <li>13. 劇制作実践 (6) 予行演習</li> <li>14. 劇制作実践 (7) 発表と評価</li> <li>15. 幼児に対する劇的指導の留意事項と保育者の役割</li> </ol> <p>定期試験は実施しない  近隣の保育所・幼稚園等において、保育環境の見学及び成果発表を実施する場合がある。</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018 年 厚生労働省：『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018 年 内閣府 他：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、フレーベル館、2018 年 この他、必要に応じて適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	グループ毎に保育実践の準備（劇的活動に関わる製作及び練習等）を行う。				
事後学習の内容	授業後に作品制作の振り返りをすると同時に、次回への見通しを持ち、必要な準備を行う。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（平素の取り組みや学習への参加の様子、協同的学びへの貢献）（40%） 期末課題発表（60%）				
履 修 上 の 注 意	表現活動を伴う授業のため、積極的な態度で受講することを希望する。 保育環境の見学や学習成果の発表のため、学外活動を行う場合がある。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	教育の思想と歴史		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	<p><b>【授業の主題】</b>  子ども観の歴史的変遷、近代から現代までの教育・保育の歴史的展開について、思想や制度に焦点をあてて、議論しながら理解を深める。その上で、教育・保育の展開を社会のあり方との関係性という観点から歴史的に考察し、「いま」そして「これから」の教育・保育という営みへのより深い理解と検討のために、教育・保育の歴史を学ぶことを目指す。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代から現代までの教育・保育の歴史的展開を理解し、その社会的意味を考察できる。</li> <li>・教育・保育に係る思想やその制度の歴史を理解し、議論できる。</li> <li>・現代における教育・保育の課題を歴史的な視点から考察し、議論できる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス—教育・保育における思想と歴史の概観</li> <li>2. 子ども観の歴史的変遷</li> <li>3. 近代における西洋の教育思想の外観</li> <li>4. 近代における西洋の教育思想—ルソー</li> <li>5. 近代における西洋の教育思想—ペスタロッチ</li> <li>6. 近代における西洋の教育思想—フレーベル</li> <li>7. 近代における西洋の教育思想—デューイ</li> <li>8. 近代における西洋の教育思想—モンテッソーリ</li> <li>9. 日本における教育・保育思想の概観</li> <li>10. 日本における教育・保育の歴史—明治期</li> <li>11. 日本における教育・保育の歴史—大正期</li> <li>12. 日本における教育・保育の歴史—昭和前期</li> <li>13. 日本における教育・保育の歴史—昭和後期</li> <li>14. 日本における教育・保育の歴史—平成期</li> <li>15. 現代社会における教育・保育の今日的課題</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 材 教	<p>テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年  中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房、2021年</p> <p>参考書：伊藤潔志編著『哲学する保育原理』教育情報出版、2018年  石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年</p>				
事 前 学 習 の 内 容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておく。				
事 後 学 習 の 内 容	授業のレジュメ見直すとともに、各回で課す小レポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート (50%)、発表の準備及び発表内容 (30%)、授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード (20%) 等により総合的に評価する。				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	比較教育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b> 日本における教育・保育政策の動向を概説する。さらに各国や地域における現状と課題について、議論しながら考察する。その上で、各国の教育・保育の制度・保育者・就学前教育保育機関等についてテーマを設定し、調べ、まとめ、発表していく。これらを通して、教育という営みを他の国や地域の事例と比較しながら検討することで、日本における教育と社会の関係について理解を深めたり、日本で当たり前として広まっていることに疑問を抱いたりできるようになることを目指す。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸外国の教育改革の動向を理解する。</li> <li>・ 日本の教育・保育の現状と課題について理解する。</li> <li>・ 日本と諸外国の教育・保育を比較検討し、議論できる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスー比較教育特論における視座</li> <li>2. 日本における教育・保育政策の動向</li> <li>3. 日本における教育・保育政策の変遷ー戦前</li> <li>4. 日本における教育・保育政策の変遷ー戦後</li> <li>5. 諸外国における教育・保育政策の動向ーイギリス</li> <li>6. 諸外国における教育・保育政策の動向ーアメリカ</li> <li>7. 諸外国における教育・保育政策の動向ー中国</li> <li>8. 諸外国における教育・保育政策の動向ーシンガポール</li> <li>9. 諸外国における教育・保育政策の動向ードイツ</li> <li>10. 諸外国における教育・保育政策の動向ーイタリア</li> <li>11. 諸外国における教育・保育政策の動向ーフィンランド</li> <li>12. 諸外国の教育・保育に関する議論ーテーマ設定</li> <li>13. 諸外国の教育・保育に関する議論ー考察</li> <li>14. 諸外国の教育・保育に関する議論ー発表</li> <li>15. まとめー比較教育論的視座による日本における教育・保育政策の今日的課題の検討</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房、2021年</p> <p>参考書：原清治、杉本均、山内乾史『比較教育社会学へのイメージ』学文社、2016年</p>				
事 前 学 習 の 内 容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておく。				
事 後 学 習 の 内 容	授業のレジュメ見直すとともに、各回で課す小レポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート (50%)、発表の準備及び発表内容 (30%)、授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード (20%) 等により総合的に評価する。				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司 (実務経験あり)		
授 業 科 目	特別支援教育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 特別支援教育の定義、学校教育法施行令 22 条の 3 に規定された障がいの行動特徴を知り、個別の教育目標、内容方法と一人ひとりの幼児児童生徒に応じた指導及び支援の在り方等について、自立活動を中心に理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特殊教育から特別支援教育への変遷について説明できる。</li> <li>・ 養護・訓練から自立活動への変遷について説明できる。</li> <li>・ 自立活動の理念や基本的な考え方について説明できる。</li> <li>・ 実態把握から指導目標の設定までのプロセスが説明できる。</li> <li>・ 自立活動の指導法・評価について説明できる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『特別支援学校教育要領』改訂の経緯と基本方針</li> <li>2. 自立活動の変遷と障がいの捉え方</li> <li>3. 自立活動の要点</li> <li>4. 自立活動の意義と指導の基本</li> <li>5. 総則における自立活動</li> <li>6. 自立活動の内容-1 健康の保持-</li> <li>7. 自立活動の内容-2 心理的な安定-</li> <li>8. 自立活動の内容-3 人間関係の形成-</li> <li>9. 自立活動の内容-4 環境の把握-</li> <li>10. 自立活動の内容-5 身体の動き-</li> <li>11. 自立活動の内容-6 コミュニケーション-</li> <li>12. 個別の指導計画の作成と作成の手順</li> <li>13. 他領域・教科等との関連、指導の創意工夫、自立活動を主とした指導</li> <li>14. 教師の協力体制、専門の医師等との連携協力</li> <li>15. 個別の教育支援計画等の活用</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	特別支援学校での実務経験を活かし、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成意義及び作成・評価・修正過程 (PDCA サイクル) に関して実践的に教授する。				
テ キ ス ト 教 材	文部科学省 (編) (2018) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版 文部科学省 (編) (2017) 『特別支援学校 幼稚部教育要領・小学部；中学部学習指導要領』開隆堂出版 文部科学省 (編) (2018) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』開隆堂出版 西岡育子 (編) (2017) 『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (原本)』チャイルド社 その他、適宜資料を配布する。				
事 前 学 習 の 内 容	授業前にテキスト及び資料を読んでおく。				
事 後 学 習 の 内 容	授業後に「Google Classroom」の課題へ「授業で学んだこと」「感想や疑問」等を書き、「Google Classroom」に投稿する。				
評 価 の 方 法 基 準	毎授業後のレポートを S (4 点) ~D (0 点) で評価する。 全 15 回分の総合点を 15 で除し、小数第 1 位を四捨五入し評価する。(100%)				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	子どもの人権教育論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>          子どもの権利条約に示される子どもの人権について理解する。その上で、子どもの権利のなかでも教育・保育に関わる権利を取り上げ、議論しながら考察していく。さらに、子どもたちの教育・保育や生活について調べ、人権の観点から考察しまとめ、発表し議論する。          子どもだからこそ独自の権利があるという考え方は、歴史のなかで生み出されてきたものであり、子どもの人権の歴史や理念を理解することが、今日的課題の検討につながる。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利について理解し、基本的な知識を得る。</li> <li>・子どもの権利の歴史について理解し、その理念について考察できる。</li> <li>・子どもの人権について考察し、人権をどう守るか具体的に議論できる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権とは何か</li> <li>2. 人権の理念と歴史</li> <li>3. 歴史の中の子ども—児童労働との関係から</li> <li>4. 子どもの権利の思想的基盤</li> <li>5. 子どもの権利とは</li> <li>6. 子どもの権利をどうとらえるか</li> <li>7. 子どもの権利—最善の利益・発達</li> <li>8. 子どもの権利—教育・保育</li> <li>9. 子どもの権利—学校へ行かないこと・行けないこと</li> <li>10. 子どもの権利—生活水準・学校給食をめぐって</li> <li>11. 子どもの権利—虐待と分離</li> <li>12. 子どもの権利—少年犯罪と少年法</li> <li>13. 子どもの権利委員会</li> <li>14. 子どもと人権</li> <li>15. まとめ—子どもの人権に係る今日的課題の検討</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 材 教	<p>テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年          中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房、2021年          参考書：日本弁護士連合会子どもの権利委員会『子どもの権利ガイドブック第2版』明石書店、2017年          山崎聡一郎『こども六法』光文堂、2019年</p>				
事 前 学 習 の 内 容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておく。				
事 後 学 習 の 内 容	授業のレジュメ見直すとともに、各回で課す小レポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート (50%)、発表の準備及び発表内容 (30%)、授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード (20%) 等により総合的に評価する。				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 檜 涼 子		
授 業 科 目	発達心理学特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b> 生涯発達を踏まえ、身体、知覚、記憶・認知、知能・思考、言語・コミュニケーション、社会性、親密性、パーソナリティの発達の様相を学ぶ。子ども達の将来的な成長や発達の見通しを持ちながら、関わることや、発達に見合った関わりがもたらす学習効果について理解することを目標とする。 授業は講義と併せて、受講生の演習課題への取組みや発表の場を設ける。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達の理論をもとに、人の発達過程を理解できる。</li> <li>・各発達段階の特徴を踏まえ、保育の中で見通しを持った子どもとの関わりを想定できる。</li> <li>・発達を踏まえた保育者の関わりが子どもに与える学習効果を考えられる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達の視点と保育・幼児教育 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1) 生涯発達とは (2) 発達段階のおさらい (3) 生涯発達の視点から捉える乳幼児期の重要性について</li> <li>2. 生涯発達の基礎課題 (1) 発達の連続性と非連続性 (2) 発達の規定因 (3) 発達観について</li> <li>3. 身体の生涯発達—① (1) 器官の成長・衰退・器官差 (2) 身長と体重の変化 (3) 性差</li> <li>4. 身体の生涯発達—② (1) 粗大運動と微細運動の発達 (2) 脳神経系の発達 (3) 身体の異常 (先天異常/生活習慣病)</li> <li>5. 知覚の生涯発達—① (1) 視覚の発達と低下 (2) 聴覚の発達と低下 (3) 触覚の発達と低下</li> <li>6. 知覚の生涯発達—② (1) 触覚の発達と低下 (2) 味覚・臭覚の発達と低下 (3) 感覚の統合</li> <li>7. 記憶・認知の生涯発達 (1) 記憶の萌芽 (2) 表象機能の発達 (3) 自己中心性/自己中心性からの脱却 (4) 記憶と認知の完成</li> <li>8. 知能・思考の生涯発達—① (1) 知能とは何か/思考とは何か (2) 表象的思考の発達 (3) 素朴理論の発達</li> <li>9. 知能・思考の生涯発達—② (1) 読み書き能力の発達 (2) 自律的な課題解決の発達 (3) 論理的思考・批判的思考の発達</li> <li>10. 言語・コミュニケーションの生涯発達 (1) 言語獲得とコミュニケーションの発達 (2) 原初的なコミュニケーション (3) 言語を超えたつながり (4) 文章作成と主体/文章作成とアイデンティティ</li> <li>11. 親密性の生涯発達—① (1) 親密性とは (2) 養育者との関係 (3) 親しい友人関係の形成</li> <li>12. 親密性の生涯発達—② (1) 異性との関係 (2) 家族としてつながる (3) 守られる立場から守る立場へ</li> <li>13. 社会性の生涯発達 (1) 身近な大人の影響力 (2) 仲間の影響力 (3) メディアの影響力</li> <li>14. パーソナリティの生涯発達 (1) パーソナリティの5つの原理 (2) 気質とパーソナリティ (3) 価値観 (4) 自己概念</li> <li>15. まとめ 定期試験は実施しない</li> </ol>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西村純一・平野真理 (編) 『生涯発達心理学』 ナカニシヤ出版</li> <li>・『保育所保育指針』 フレーベル館</li> <li>・『幼稚園教育要領』 フレーベル館</li> <li>・その他適宜資料配布</li> </ul>				
事 前 学 習 の 内 容	<p>授業での分担発表に備え、テキストの該当部分を事前に読んでおく。 その他に、適宜、事前学習について指示があった場合は、それについて実施する。</p>				
事 後 学 習 の 内 容	<p>授業で実施した内容について、配布資料やテキストをもとに復習する。 その他に、適宜、事後学習についての指示があった場合は、それについて実施する。</p>				
評 価 の 方 法 基 準	<p>授業での課題 (50%) 最終レポート (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>授業内容に関連して授業時間外での予習・復習が必要となる。 第1回目授業でシラバスを使用する。</p>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 檜 涼 子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	教育相談特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>  幼児、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。  教育相談に取り組むための専門知識を学び、保育・教育現場で起こりうる事例を題材に問題解決方法を検討していく。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に必要な理論と専門知識について学び、保育者の役割を考えることができる。</li> <li>・各発達期の特徴と諸問題を理解し、計画に基づいた組織的な取り組みや連携を理解する。</li> <li>・事例研究を通して具体的な問題解決方法をグループで話し合い、対応を考えられる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の理解 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1)教育相談の定義、意義、目的 (2)教育相談の種類と実際 (問題解決的教育相談/予防的教育相談/開発的教育相談)</li> <li>2. 子どもの発達と教育相談 (1)発達理解と相談・支援 (乳児/3歳未満児/3歳以上児/児童期以降)</li> <li>3. 子どもの抱える困難さ (1)特別な支援を必要とする子どもと保護者へのかかわり (2)子どもの反社会的行動・非社会的行動に関する理解と対応</li> <li>4. 子どもの発達とアセスメント—① (1)アセスメントとは何か (2)アセスメントまでの流れ (3)インフォームド・コンセントと守秘義務</li> <li>5. 子どもの発達とアセスメント—② (1)様々なアセスメント方法 (観察法/面接法/検査法/作品法など) (2)検査バッテリー</li> <li>6. 子どもの発達とアセスメント—③ (1)カウンセリングの理論と技法 (2)言語・非言語によるコミュニケーション (3)記録の取り方</li> <li>7. チームで行う教育相談—① 組織の体制</li> <li>8. チームで行う教育相談—② 地域との連携</li> <li>9. チームで行う教育相談—③ コンサルテーションの実際</li> <li>10. 【演習】事例研究—①子ども同士のいざこざ (子どもへの対応事例/保護者への対応事例)</li> <li>11. 【演習】事例研究—②気になる子ども (子どもへの対応事例/保護者への対応事例)</li> <li>12. 【演習】事例研究—③虐待が疑われる子ども</li> <li>13. 【演習】事例研究—④不適切保育の事例</li> <li>14. 【演習】事例研究—⑤異文化理解 (子どもへの対応事例/保護者への対応事例)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	幼児の発達巡回指導、小学校での特別支援事業での経験を活かし、子どもの抱える困難さ、教育相談の方法、教育相談の実際などについて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田豊・秋田喜代美 (編) 『新時代の保育双書 子どもの理解と保育・教育相談』 第2版</li> <li>・高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男 (編著) 『MINERVA はじめて学ぶ教職⑩ 教育相談』 ミネルヴァ書房</li> <li>・『幼稚園教育要領』 フレーベル館、その他適宜資料配布</li> </ul>				
事 前 学 習 の 内 容	授業での分担発表に備え、テキストの該当部分を事前に読んでおく。 その他に、適宜、事前学習について指示があった場合は、それについて実施する。				
事 後 学 習 の 内 容	授業で実施した内容について、配布資料やテキストをもとに復習する。 その他に、適宜、事後学習についての指示があった場合は、それについて実施する。				
評 価 の 方 法 基 準	授業での課題 (50%) 最終レポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習、課題遂行が必要となる。 第1回目授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 檜 涼 子		
授 業 科 目	心理学研究法	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>          保育・幼児教育分野における研究計画やリサーチ・クエスチョンの立て方、研究で用いる。研究手法や分析方法について学ぶ。また、研究倫理についての正しい理解をE-Learningを通して学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・幼児教育における学問的な知識に基づき、問題意識や目的意識を認識できる。</li> <li>・研究倫理を理解し、適切な研究計画を立案できる。</li> <li>・心理学研究法を学び、分析方法や結果のまとめ方等について知り、先行研究論文が読めるようになる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学研究法概論 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1) 研究法概論 (研究法を学ぶ意義/心に関する概念)</li> <li>2. 研究計画の立案方法 (1) 先行研究のレビュー (2) 問題・目的の設定 (3) 研究法の選択 (実験法/質問紙調査法/観察法/面接法/検査法/実践的研究)</li> <li>3. 研究倫理の理解—① (1) 研究倫理の基本原則 (人格の尊重/善行/公正) (2) 対象者への配慮 (インフォームド・コンセント/個人情報の保護)</li> <li>4. 研究倫理の理解—② (1) 不正行為の防止について (捏造/改ざん/剽窃) (2) 利益相反管理について</li> <li>5. 【演習】研究倫理の理解—③ 研究倫理 E-Learning の実践</li> <li>6. 【発表】心理学研究法—①質問紙法 (質問紙法の概要/基礎概念/質問紙調査の分類とデータ収集の手順)</li> <li>7. 【発表】心理学研究法—②観察法 (観察法の概要/量的方法/質的方法/倫理的配慮)</li> <li>8. 【発表】心理学研究法—③面接法 (面接法の概要/調査面接法/臨床面接法)</li> <li>9. 【発表】心理学研究法—④検査法 (検査法の概要/知能検査/発達領域の検査/パーソナリティ検査/ 適応行動・生活機能検査)</li> <li>10. 【発表】心理学研究法—⑤実践的研究法 (実践的研究法の概要/事例研究/実践的フィールドワーク/ アクション・リサーチ)</li> <li>11. データ処理・分析方法—① 尺度の種類とデータ整理</li> <li>12. データ処理・分析方法—② 基礎統計</li> <li>13. データ処理・分析方法—③ 推測統計</li> <li>14. データ処理・分析方法—④ 仮説検定</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	三浦麻子・小島康生・平井啓 (編著) 『心理学研究法』 ミネルヴァ書房 その他適宜資料配布				
事前学習の内容	授業での分担発表に備え、テキストの該当部分を事前に読んでおく。 その他に、適宜、事前学習について指示があった場合は、それについて実施する。				
事後学習の内容	授業で実施した内容について、配布資料やテキストをもとに復習する。 その他に、適宜、事後学習についての指示があった場合は、それについて実施する。				
評 価 の 方 法 基 準	研究倫理 E-Learning に関する中間課題 (25%)、心理学研究法に関する発表 (25%) 心理学研究法に関する最終レポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習、課題遂行が必要となる。 第1回目授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	浅野泰昌		
授 業 科 目	児童文化学特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b> 乳幼児期の子どもの文化的価値観を豊かに育むことは恒久的な課題である。現代の子どもを取りまく社会的・文化的状況をふまえ、理論と実践の両面から、児童文化に関する学習を深める。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文化の歴史・概念・定義・対象・領域等に関する学びを深め、その意義を理解する。</li> <li>・作品の分析や考察、及び作家の研究を通して、児童文化を構造的に把握する。</li> <li>・児童文化財の制作と上演を通して、児童文化に関する保育の構想と実践について複合的に理解する。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童文化とはなにか (1) 子ども観の変遷に基づく成立史</li> <li>2. 児童文化とはなにか (2) 定義・対象・領域</li> <li>3. 子どもの生活と文化の現状とその問題点 (1) 内容的側面</li> <li>4. 子どもの生活と文化の現状とその問題点 (2) 媒介的側面</li> <li>5. 児童文化の伝統と継承及び創造</li> <li>6. 作家論・作品論 (1) ベイビーシアター (乳児向け舞台芸術)</li> <li>7. 作家論・作品論 (2) 絵本</li> <li>8. 作家論・作品論 (3) 人形劇</li> <li>9. 作家論・作品論 (4) アニメーション</li> <li>10. 作品理解に基づいた児童文化財の保育への活用 (1) 保育の構想</li> <li>11. 作品理解に基づいた児童文化財の保育への活用 (2) 模擬保育の実践</li> <li>12. 児童文化財の制作と上演 (1) 主題の設定、内容の検討</li> <li>13. 児童文化財の制作と上演 (2) 製作と練習</li> <li>14. 児童文化財の制作と上演 (3) 上演と振り返り</li> <li>15. 児童文化に関わる政策、授業の総括</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018年 厚生労働省：『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018年 他、幼児教育関係告示文 [参考書] 川勝泰介/編著『よくわかる児童文化』、ミネルヴァ書房、2020年 その他、必要に応じて適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	指定された資料・テキストにより、次回の授業内容の予習をする。演習の準備 (製作、練習等) をする。				
事後学習の内容	授業後に内容を振り返り、気づきと学びをまとめる。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録 (平素の取り組みや学習への参加の様子、協同的学びへの貢献) (40%) 期末課題 (60%)				
履 修 上 の 注 意	積極的な態度で受講することを希望する。 知識や技術の修得だけでなく、物の見方や考え方を培う姿勢や課題に対する態度を重視する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	神崎 貞子		
授 業 科 目	幼稚園体験活動		科目区分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年 (集中)
授 業 の 主 題 目	<p><b>【授業の主題】</b>  幼稚園や認定こども園において、教諭としてのインターンシップ・職業体験の機会として位置付けられている。具体的には、幼稚園や認定こども園における教育活動やその他の業務全般について、支援や補助業務を行う。これらの体験を通して、教諭の職務の実態を把握し、自己の適性や課題を明確にし、今後のキャリア形成に資することを目的とする。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任の補助的な役割を担う中で、教諭の職務内容を理解する。</li> <li>・様々な活動の場面において、適切に幼児と関わることができる。</li> <li>・保育に必要な基礎的技術（幼児理解、環境の構成、保育の展開など）を身につける。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<p>配属先施設での担任による教育活動の周回の参加を体験する。</p> <p>1) 期間・日程 (予定)  10 月中に 5 日間の体験活動を行う。  なお、体験活動の前後に、事前訪問 (9 月中) と事後訪問 (10 月下旬) を行う。</p> <p>2) 配属施設  倉敷市保健福祉局子ども未来部保育・幼稚園課および倉敷市教育委員会の協力を得て、倉敷市公立幼稚園および認定こども園で実施する。</p> <p>3) その他  幼稚園体験活動の事前・事後指導の日程は、掲示板を通して提示する。</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	内閣府・文部科学省・厚生労働省『保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 30 年施行)』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説 (平成 30 年施行)』フレーベル館 ※必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事 前 学 習 の 内 容	幼稚園教育要領解説や本科 2 年次の教育実習における実習日誌等を読み返し、保育者の職務について自分なりに考えること。				
事 後 学 習 の 内 容	幼稚園体験学習を通して、教諭の職務の実態を把握し、自己の適性や課題を明確にし、報告会において発表すること。				
評 価 の 方 法 基 準	自己課題の達成度ならびに、巡回訪問時評価表による評価 (30%) 報告会での発表内容 (20%) 活動記録の提出による内容の評価 (50%)				
履 修 上 の 意 注	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	幼児の国際理解演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	<p><b>【授業の主題】</b>  グローバル化が進展する中、国際的視野を持った保育者のニーズは今後さらに高まることが予想される。国内外の保育現場における国際理解の現状を知り、保育者自らが国際理解を深めることで、将来幼児の国際理解教育について実践できるようになることを目指す。なお、テキストは各章の事前学習・ワーク・事後学習に沿って学べるワークブックであり、演習形式で進める。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来保育者に必要な国際理解の知識を修得することができる。</li> <li>・国内外における保育現場について、国際理解の観点から比較し、理解を深めることができる。</li> <li>・幼児期の国際理解について、自ら課題を設定して、保育実践をすることができる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス / 世界の言語</li> <li>2. 国際理解とグローバル化</li> <li>3. 国際社会と英語教育</li> <li>4. グローバル社会における諸問題</li> <li>5. グローバル社会と海外での学び</li> <li>6. スペインの文化と教育</li> <li>7. 国際理解と教育—ドイツの事例から—</li> <li>8. 子育て支援・保育の国際比較</li> <li>9. 国際理解と諸外国の保育</li> <li>10. 日本の幼児教育における英語教育</li> <li>11. 未来を託す国際社会における子ども理解</li> <li>12. 国際理解とSDGsに関する英語絵本作成</li> <li>13. 英語絵本の読み聞かせ指導</li> <li>14. 英語絵本の発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	五十嵐淳子（編著）（2021）『国際関係の学び—グローバル社会の子どもの社会を見据えて—』大学図書出版				
事前学習の内容	各章に設定されている事前学習に取り組んでおくこと。				
事後学習の内容	各章に設定されている事後学習に取り組んでおくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	コメントペーパー（30%）、課題（30%）、発表（40%）				
履 修 上 の 意 注	特になし。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	幼児の英語活動演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目 標	<p><b>【授業の主題】</b>  マザーグースの歌を通して英語の音やリズムに親しみ、英語絵本や英語活動を通して保育現場で英語活動を実践できる力を養う。前期は歌と英語絵本の読解・創作・読み聞かせを行い、後期は英語活動の意義を学びながら季節行事を題材に活動を準備・実践する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マザーグースを通して、英語の音とリズムを慣れ親しむことができる。</li> <li>・保育現場における英語活動の意義を理解できる。</li> <li>・季節行事を題材に、保育現場で英語活動を実践できる力を養うことができる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス / マザーグース</li> <li>2. マザー・グース(1) Hush-A-Bye, Baby / 英語絵本の特徴</li> <li>3. マザー・グース(2) This Little Pig / 英語絵本の構成</li> <li>4. マザー・グース(3) Rub-A-Dub-Dub / 英語絵本の内容</li> <li>5. マザー・グース(4) Pat-A-Cake / 英語絵本の作成 ①構成</li> <li>6. マザー・グース(5) Ring-A-Ring O' Roses / 英語絵本の作成 ②構成</li> <li>7. マザー・グース(6) London Bridge / 英語絵本の作成 ③内容</li> <li>8. マザー・グース(7) Hickory Dickory Dock / 英語絵本の作成 ④内容</li> <li>9. マザー・グース(8) Pussy Cat, Pussy Cat / 英語絵本の作成 ⑤内容</li> <li>10. マザー・グース(9) Georgie Porgie / 英語絵本の作成 ⑥内容</li> <li>11. マザー・グース(10) Little Miss Muffet / 英語絵本の作成 ⑦英訳</li> <li>12. マザー・グース(11) Little Jack Horner / 英語絵本の作成 ⑧英訳</li> <li>13. マザー・グース(12) Mary, Mary / 英語絵本の作成 ⑨音読・表現力指導</li> <li>14. マザー・グース(13) Peter, Pumpkin Eater / 英語絵本の作成 ⑩音読・表現力指導</li> <li>15. 英語絵本の読み聞かせ</li> <li>16. マザー・グース(14) Peter Piper / 英語活動の意義</li> <li>17. マザー・グース(15) One, Two, Buckle My Shoe / 世界の英語教育</li> <li>18. マザー・グース(16) Who Killed Cock Robin? / ハロウィンの英語活動の準備 ①</li> <li>19. マザー・グース(17) The Old Woman In A Shoe / ハロウィンの英語活動の準備 ②</li> <li>20. ハロウィンの英語活動</li> <li>21. マザー・グース(18) Rain, Rain, Go Away / 早期言語学習のメリット</li> <li>22. マザー・グース(19) Hot Cross Buns / 英語活動の教材</li> <li>23. マザー・グース(20) The North Wind Jack and Jill / クリスマスの英語活動の準備 ①</li> <li>24. マザー・グース(21) Hey Diddle Diddle / クリスマスの英語活動の準備 ②</li> <li>25. クリスマスの英語活動 (1)</li> <li>26. クリスマスの英語活動 (2)</li> <li>27. マザー・グース(22) Humpty Dumpty / 子どもの言葉の学び方</li> <li>28. マザー・グース(23) The Man In The Moon / 日本行事の英語活動の準備 ①</li> <li>29. マザー・グース(24) Jack and Jill / 日本行事の英語活動の準備 ②</li> <li>30. 日本行事の英語活動・まとめ</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	来往正三著『マザー・グースの世界』南雲堂 適宜、プリントを配布する。				
事前学習の内容	必ず予習をして臨み、未知の単語があれば調べておくこと。				
事後学習の内容	授業で学んだ語彙や表現、英語活動の内容について復習しておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	課題 (50%)、発表 (50%)				
履 修 上 の 意 注	英和辞書を持参すること。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	児童福祉特論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・前期 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>  児童家庭福祉分野におけるソーシャルワークの基本概念や構造について学ぶとともに、児童福祉施設におけるソーシャルワークだけでなく、学校におけるスクールソーシャルワークについても理解する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童家庭福祉分野におけるソーシャルワークの基本概念や構造について理解する。</li> <li>・児童福祉施設におけるソーシャルワークについて理解する。</li> <li>・学校におけるスクールソーシャルワークについて理解する。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童家庭福祉分野におけるソーシャルワーク</li> <li>2. 児童福祉施設におけるソーシャルワーク</li> <li>3. 保育所と地域子育て支援センターでのソーシャルワーク</li> <li>4. 乳児院におけるソーシャルワーク</li> <li>5. 児童養護施設におけるソーシャルワーク</li> <li>6. 地域小規模児童養護施設におけるソーシャルワーク</li> <li>7. 児童心理治療施設におけるソーシャルワーク</li> <li>8. 自立援助ホームにおけるソーシャルワーク</li> <li>9. 退所児童等アフターケア事業とソーシャルワーク</li> <li>10. 社会的養護にかかわる当事者団体のソーシャルワーク活動</li> <li>11. 分園型小規模グループケアと里親支援におけるソーシャルワーク</li> <li>12. 児童養護施設と学校をつなぐソーシャルワークの展開</li> <li>13. 学校におけるソーシャルワークの展開とその展望</li> <li>14. 学校におけるスクールソーシャルワーカーの支援</li> <li>15. 児童家庭福祉の課題と展望</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	櫻井慶一・宮崎正宇編著『福祉施設・学校現場が拓く児童家庭ソーシャルワーク：子どもとその家族を支援するすべての人に』北大路書房 2017年 必要に応じて資料を配布する。				
事前学習の内容	テキストの該当部分を読み、概要を把握しておくこと。 授業の中で、発表が必要な事柄についてレポートを提出すること。				
事後学習の内容	授業中のノートや配布資料を見直し、要点を把握しておくこと。 発表に関するコメントシートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	発表 (10%)、レポート (50%)、コメントシート (40%)				
履 修 上 の 意 注					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	平岡 敦子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	乳児保育特論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b> 近年の乳児保育のニーズが高まる中、乳児保育の対象者となる子どもとその環境の特性を社会情勢とそ の変化とともに理解することをねらいとする。</p> <p><b>【到達目標】</b> 乳児の心身の発達の特徴とそれを保障するための生活環境について学び、また乳児を持つ家族の発達や その特性、生理的な変化及び社会的環境を知り、乳児保育場面における子育て支援のあり方について理 解することを目標とする。</p>				
授 業 の 内 容 方 進 め	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 乳児の育つ環境と保育の課題</li> <li>2. 乳児の「こころ」の発達</li> <li>3. 乳児の発達と動き～発達を促すかかわり</li> <li>4. 乳児の「気になる」発達とは</li> <li>5. 生活習慣が及ぼす乳児の心身の健康への影響</li> <li>6. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得 (1) 食事とことば</li> <li>7. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得 (2) 排泄</li> <li>8. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得 (3) 睡眠とその習慣</li> <li>9. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得 (4) 清潔とその習慣</li> <li>10. 乳児期の家庭環境「子育て」と「ストレス」：「子育て」は「ストレス」か？</li> <li>11. 保育所における保護者に対する支援 (1) 乳児期の家族環境の理解</li> <li>12. 保育所における保護者に対する支援 (2) 家族不和や虐待の子どもへの影響</li> <li>13. 保育所における保護者に対する支援 (3) 気になる子どもの理解とかかわり</li> <li>14. 乳児保育と子育て支援～連携と調整における保育士の役割～</li> <li>15. まとめ・定期試験：筆記試験（小論文形式）</li> </ol> <p>プレゼンテーション課題：各テーマについて、乳児期の子どもに焦点が当て、乳児の心身の発達の特徴や その家族の発達やその特性についてまとめること。発表者だけではなく質疑応答において適切に返答で きることを基準とする。プレゼンテーションについては、事前の指導・相談に応じるので、積極的に取り 組むことを求める。</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	助産師としての臨床経験を活かして、保育の現場で出会う健康上のニーズの高い子どもを看護するため に必要な知識と方法について具体例を用いて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料：小西行朗著『赤ちゃんと脳科学』（集英社新書）、北村晋一著『乳幼児の運動発達と支援：気にな る動きと弱さへの指導—発達障害児も視野に』（群青社） 資料は授業時に配布する。				
事前学習の内容	乳児保育Ⅰ、Ⅱを必ず復習して臨むこと。参考資料の書籍を購読して臨むことが望ましい。				
事後学習の内容	配布資料などをもとに事後振り返りかえったり、授業内容に関する関心事項について調べること。				
評 価 の 方 法 基 準	定期試験 (40%) プレゼンテーション課題 (60%)				
履 修 上 の 意 注	授業内容に関連した社会時事について関心を持ち、課題発表にはその事前学習が十分に反映されること を求める。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	平岡 敦子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	小児の看護と保育	科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>          子どもの病気やけがは急変しやすく、保育現場においてはその様子の変化に気づき、状況を判断して対応することが必要である。保育場面における保育の役割として子どもの疾病やケガの発見、ケア、予防について学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b>          子どもの健康状態、異常の早期発見、病気の予防と健康教育、応急処置、看護について理解し、保育現場において実践できる知識と技術を習得することを目標とする。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション～小児の健康上の特徴と保育における看護の定義～</li> <li>2. 子どもの健康状態の観察と異常の早期発見：バイタルサインの特徴と観察方法（体温）</li> <li>3. 子どもの健康状態の観察と異常の早期発見：バイタルサインの特徴と観察方法（脈拍）</li> <li>4. 子どもの健康状態の観察と異常の早期発見：バイタルサインの特徴と観察方法（呼吸）</li> <li>5. 子どもの体調の変化時のバイタルサインの特徴と観察方法</li> <li>6. 病児の特徴：心身の状態の観察と健康状態の考察</li> <li>7. 病児のケア：事例と考察</li> <li>8. (GW) 応急処置 (1) 事例検討</li> <li>9. (GW) 応急処置 (2) 事例検討</li> <li>10. (GW) 応急処置 (3) 発表と評価</li> <li>11. 健康教育 (1) 基礎理論</li> <li>12. 健康教育 (2) 保育現場の実践例</li> <li>13. 子どものケアの技術：プレパレーション</li> <li>14. プレパレーションを用いた小児の看護</li> <li>15. まとめ：健康教育における教材検討・定期試験</li> </ol> <p><b>【要点】</b>          2～5 回目 子どもの健康な生理的状态と変化、観察の要点・方法          8～10 回目 応急処置が必要な場合の援助方法を役割と連携 (GW)          11～14 回目 プレパレーション理論を基に子どもの健康教育にて用いる教材検討</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	助産師としての臨床経験を活かして、保育の現場で出会う健康上のニーズの高い子どもを看護するために必要な知識と方法について具体例を用いて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	参考文献は授業中に提示する。 参考資料：『写真でわかる小児看護技術』インターメディカ出版				
事前学習の内容	授業資料やテキスト『子どもの保健』『子どもの健康と安全』子どもの身体・疾病の特徴、応急処置について復習する。				
事後学習の内容	配布資料などをもとに事後振り返りかえったり、授業内容に関する関心事項について調べること。				
評 価 の 方 法 基 準	定期試験 (50%) プレゼンテーション課題の達成度 (50%)				
履 修 上 の 注 意	動きやすい服装による参加が望ましい。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	木戸 啓子		
授 業 科 目	親子支援演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 標 目	<p>【授業の主題】 親子交流の場に継続的に関わることで、親子支援の進め方を理解する。 計画-実践-評価を行い、親子交流広場の運営・管理に関わる具体的知識・技術、職員の連携のあり方について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子交流広場に訪れる乳幼児や保護者とコミュニケーションや接近方法、遊びを身につける。</li> <li>・親子交流広場の運営に参加し、親子交流のあり方や子育て支援の具体的方法と課題を理解する。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 方 進 め	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親子交流施設の理解(1)親子交流広場を観察し、親子の姿を把握する。</li> <li>2. 親子交流施設の理解(2)親子交流広場を観察し、支援者の役割を理解する。</li> <li>3. 親子交流施設の理解(3)親子交流広場を観察し、親子の様子からケースカンファレンスを行う。</li> <li>4. 親子交流施設の理解(4)親子交流広場での演習課題を検討する。</li> <li>5. 親子支援のプログラム立案 (児童文化財)</li> <li>6. 親子支援のプログラム (児童文化財) の展開</li> <li>7. 親子支援のプログラムの展開 (児童文化財) に関わる事後評価</li> <li>8. 親子支援のプログラム立案 (ふれあい遊び)</li> <li>9. 親子支援のプログラム (ふれあい遊び) の展開</li> <li>10. 親子支援のプログラムの展開 (ふれあい遊び) に関わる事後評価</li> <li>11. 親子支援のプログラム立案 (行事)</li> <li>12. 親子支援のプログラム (行事) の展開</li> <li>13. 親子支援のプログラムの展開 (行事) に関わる事後評価</li> <li>14. 親子交流広場での演習課題の総括を行う。</li> <li>15. 中間まとめ 親子支援の振り返りを行う。</li> <li>16. 子ども家庭福祉の制度の理解</li> <li>17. 子育て支援における連携の必要性</li> <li>18. 子育て支援における基本的視点(1)親子の視点</li> <li>19. 子育て支援における基本的視点(2)社会の視点</li> <li>20. 地域子育て支援拠点の成り立ち</li> <li>21. 地域子育て支援拠点の制度上の位置づけ</li> <li>22. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(1)基本的な考え方</li> <li>23. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(2)支援者の役割</li> <li>24. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(3)子どもの遊びと環境</li> <li>25. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(4)親との関係性</li> <li>26. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(5)受容と自己決定</li> <li>27. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(6)運営管理と活動の改善</li> <li>28. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(7)職員同士の連携と研修</li> <li>29. 地域子育て支援拠点における課題</li> <li>30. まとめ</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	渡辺頭一郎・橋本真紀『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き第4版』中央法規 厚生労働省『保育所保育指針解説(平成30年施行)』フレーベル館 ※ 参考図書の提示や資料配布などは、授業の中で適宜行う。				
事 前 学 習 の 内 容	実際に親子交流広場“倉短ひろば くららっこ”での実践を伴うため、日常的に子育て支援の話題に触れ、積極的な姿勢での参加が望まれる。				
事 後 学 習 の 内 容	親子交流広場に訪れる乳幼児や保護者との関わりや活動内容について参加記録にまとめ、親子支援に関する課題について自分の考えをもつようにする。				
評 価 の 方 法 基 準	親子交流広場への積極的参加態度 (20%)、プログラムの計画及び実践 (30%)、自己評価能力 (30%)、最終レポート (20%)				
履 修 上 の 意 注	“倉短ひろば くららっこ”への日常的な参加観察を心がける。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	安久津 太一		
授 業 科 目	子どもの音楽療法		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b>          保育領域において援用される音楽療法の視点及び理論について理解を深める。また、障がいの有無に関わらず子どもの成長を支援する音楽を媒体とする援助方法の特徴、各種技法について体系的に学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が音楽のもつ機能と子どもへの心理的・生理的作用について理解する。</li> <li>・ 音楽を媒体とした子どもの発達支援について理解する。</li> <li>・ 子どもと保育者の相互的な対話における多様な表現表出について、多角的な視点を身につける。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽療法とは：音楽療法における音の存在、音楽の役割</li> <li>2. 音楽療法の歴史：諸外国及び日本で実践・研究されている音楽療法</li> <li>3. 音楽の生理的・心理的作用及び社会的機能</li> <li>4. 子どものための音楽療法及び療法的音楽活動</li> <li>5. 音楽療法における「臨床」と「非臨床」の考え方</li> <li>6. 音楽的コミュニケーション・対話の実践</li> <li>7. 現代の生活と音楽療法：ケアの視点</li> <li>8. 音楽教育と音楽療法の接点① 音楽構造の持つ法則性と精神機能の統合</li> <li>9. 音楽教育と音楽療法の接点② 創造的な活動の展開</li> <li>10. さまざまな楽器を用いた音楽療法の可能性</li> <li>11. 実践を通じた事例検討1：音楽を媒体とした発達支援</li> <li>12. 実践を通じた事例検討2：子どもと保育者の相互的な関わり</li> <li>13. 実践を通じた事例検討3：音楽的環境の提供方法</li> <li>14. 音楽中心療法：多様な参加を可能とするミュージッキングの実践</li> <li>15. グループ討議・まとめ</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー』				
事前学習の内容	事前に指定されたテキストの内容について、概要を把握する。				
事後学習の内容	事後課題を提出する。 授業の中で、提示された事項について調査を求めることもある。				
評 価 の 方 法 基 準	課題の達成度 (30%)、課題等の提出物 (30%)、課題の発表 (40%) 等により総合的に評価する。				
履 修 上 の 意 注	討議と実技を含めて授業を進行するので、積極的に参加する姿勢を求める。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	障がい児保育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年 次 ・ 後 期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】</p> <p>子どもの精神発達について、横断的にとらえるだけでなく、「認識の発達水準」「関係の発達水準」の流れを辿ることによって、子どもの発達を縦断的に説明することができる。また、知的能力症、発達障がい（自閉症、注意欠如多動症、限局性学習症）の概要及びそれらに合併する疾患や類似する疾患について、成因、疫学、臨床症状、検査所見、予後、治療について理解することができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの成長、精神発達という軸のなかで自閉症、注意欠如多動症、限局性学習症の子どもの成長、精神発達の過程を説明することができる。</li> <li>社会・文化という軸の中で、自閉症、注意欠如多動症、限局性学習症の子どもの障がい特性を説明することができる。</li> <li>障がいのある子どもの育ちは、既知の発達段階やマニュアル通りにいかないことを説明することができる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の領域分け</li> <li>2. 不安・緊張・孤立</li> <li>3. 発達のおくれと言葉のおくれ</li> <li>4. 認識発達のおくれと孤独</li> <li>5. 関係発達のおくれと孤独</li> <li>6. 高い感覚性の世界</li> <li>7. 感覚世界の混乱性</li> <li>8. 感覚の混乱性</li> <li>9. 感覚の混乱性への対処努力</li> <li>10. 高い衝動性の世界</li> <li>11. 情動的混乱</li> <li>12. 情動的混乱と対処努力</li> <li>13. 児童期における支援</li> <li>14. 幼児期における支援</li> <li>15. 学童期における支援</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※毎時間 10 分程度、テキストの以下の章の部分的講読を行う。</p> <p>第1章 〈こころ〉をどうとらえるか  第2章 「精神医学」とはどんな学問か  第3章 精神障害の分類と診断</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	滝川一廣（著）（2017）『子どものための精神医学』医学書院 西岡育子（編）（2017）『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社				
事 前 学 習 の 内 容	授業前にテキスト及び資料を読んでおく。				
事 後 学 習 の 内 容	授業後に「Google Classroom」の課題へ「授業で学んだこと」「感想や疑問」等を書き、「Google Classroom」に投稿する。				
評 価 の 方 法 基 準	毎授業後のレポートをS（4点）～D（0点）で評価する。 全15回分の総合点を15で除し、小数第1位を四捨五入し評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	子育て支援特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 目 標	<p>【授業の主題】 障がいのある子どもをもつ保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（子育て支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の心を支え、問題を解決していくために使える技法と理論を説明することができる。</li> <li>・保育現場の子育て支援の現状を理解することができる。</li> <li>・保護者の子育ての現状を分析することができる。</li> <li>・カウンセリング技法を学ぶ中で、自分の他者へのかかわり方の姿勢、価値観、生きる姿勢の変化、いわゆる自己成長に気づくことができる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親の発達・保育者の発達に影響を及ぼす社会的な課題、子育て支援の推進</li> <li>2. いわゆるモンスターペアレント、特別な支援を必要とする子どもへの支援・親支援保護者集団で起こる問題</li> <li>3. 保護者支援1ー成長・発達が遅い、指しゃぶり/神経性習癖ー</li> <li>4. 保護者支援2ー体が弱い/虚弱、恐怖症/体験と心の発達ー</li> <li>5. 保護者支援3ー音声表出・言語発達の問題ー</li> <li>6. 保護者支援4ーアレルギー対応/健康への配慮ー</li> <li>7. 保護者支援5ー人見知り/対人関係の形成ー</li> <li>8. 保護者支援6ー排せつの自立/生活習慣の確立、テレビ・ゲーム中心の生活/生活習慣の乱れー</li> <li>9. 保護者支援7ー運動が苦手/粗大運動の発達、生活のリズムの確立・獲得、手先が不器用/利き手ー</li> <li>10. 保護者支援8ー言葉遣い/言葉の発達、落ち着いて行動できない、集中できないー</li> <li>11. 保護者支援9ー感情のコントロール/攻撃性、表出言語理解/知的発達ー</li> <li>12. 保護者支援10ー親への反抗/自己主張、登園渋り、友達とのいざこざー</li> <li>13. 保護者支援11ー親同士のトラブル、母親の家族問題、嫁姑の問題ー</li> <li>14. 保護者支援12ー子育てと夫婦関係、子育て不安ー</li> <li>15. 保護者支援13ー親のメンタルの問題、しかり方がわからないー</li> </ol> <p>※適宜、保育園・幼稚園で使える基礎的カウンセリング技法の演習を行う。</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<p>諸富祥彦・富田久枝（著）（2015）『保育現場で使える カウンセリング・テクニクー保護者支援・先生のチームワーク編ー』ぎょうせい</p> <p>諸岡祥直・大竹尚子（編）（2020）『スキルアップ 保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニク』誠信書房</p> <p>西岡育子（編）（2017）『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社</p>				
事 前 学 習 の 内 容	授業前にテキスト及び資料を読んでおく。				
事 後 学 習 の 内 容	授業後に「Google Classroom」の課題へ「授業で学んだこと」「感想や疑問」等を書き、「Google Classroom」に投稿する。				
評 価 の 方 法 基 準	毎授業後のレポートをS（4点）～D（0点）で評価する。 全15回分の総合点を15で除し、小数第1位を四捨五入し評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司 (実務経験あり)		
授 業 科 目	子育て支援実習		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 通 年
授 業 の 主 題 目	<p><b>【授業の主題】</b> 障がいのある子どもの理解及びその保育内容、保護者への支援のあり方などについて理解する。また、保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育カウンセリング）について実践する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察や子どもとのかかわりを通して子どもを理解することができる。</li> <li>・ 既習の科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援ができる。</li> <li>・ 保育の指導案、観察、記録及び自己評価等ができる。</li> </ul>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4月の親子ふれあい遊び1-模擬保育-</li> <li>2. 4月の親子ふれあい遊び1-実習-</li> <li>3. 4月の親子ふれあい遊び1-反省会-</li> <li>4. 5月の親子ふれあい遊び2-模擬保育-</li> <li>5. 5月の親子ふれあい遊び2-実習-</li> <li>6. 5月の親子ふれあい遊び2-反省会-</li> <li>7. 6月の親子ふれあい遊び3-模擬保育-</li> <li>8. 6月の親子ふれあい遊び3-実習-</li> <li>9. 6月の親子ふれあい遊び3-反省会-</li> <li>10. 7月の親子ふれあい遊び4-模擬保育-</li> <li>11. 7月の親子ふれあい遊び4-実習-</li> <li>12. 7月の親子ふれあい遊び4-反省会-</li> <li>13. 8月の親子ふれあい遊び5-模擬保育-</li> <li>14. 8月の親子ふれあい遊び5-実習-</li> <li>15. 8月の親子ふれあい遊び5-反省会-</li> <li>16. 10月の親子ふれあい遊び6-模擬保育-</li> <li>17. 10月の親子ふれあい遊び6-実習-</li> <li>18. 10月の親子ふれあい遊び6-反省会-</li> <li>19. 11月の親子ふれあい遊び7-模擬保育-</li> <li>20. 11月の親子ふれあい遊び7-実習-</li> <li>21. 11月の親子ふれあい遊び7-反省会-</li> <li>22. 12月の親子ふれあい遊び8-模擬保育-</li> <li>23. 12月の親子ふれあい遊び8-実習-</li> <li>24. 12月の親子ふれあい遊び8-反省会-</li> <li>25. 1月の親子ふれあい遊び9-模擬保育-</li> <li>26. 1月の親子ふれあい遊び9-実習-</li> <li>27. 1月の親子ふれあい遊び9-反省会-</li> <li>28. 2月の親子ふれあい遊び10-模擬保育-</li> <li>29. 2月の親子ふれあい遊び10-実習-</li> <li>30. 2月の親子ふれあい遊び10-反省会-</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	特別支援学校での実務経験を活かし、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成意義及び作成・評価・修正過程（PDCA サイクル）に関して実践的に教授する。また、子育て相談の際の傾聴・共感・受容の基本的態度を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	文部科学省（編）（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版 西岡育子（編）（2017）『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社				
事 前 学 習 の 内 容	子育て支援センターや実習において把握した子どもの実態を確認する。 実習の主指導者を中心に指導案や教材・教具、手作りおもちゃなどの作成を行う。				
事 後 学 習 の 内 容	実習振り返りレポートを作成する。				
評 価 の 方 法 基 準	模擬保育（指導案：20%、教材、教具の制作・準備：20%） 実習（40%） 反省会資料（個別レポート：20%）				
履 修 上 の 意 注	実習は、年間計10回（4月～2月の土曜日）の実習を行う。9月、3月は、実施しない。 子育て支援センターへの交通費は、自費とする。 教材・教具、手作りおもちゃなどの費用は、学生が等分し実費とする。 パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	保育学科全教員																																						
授 業 科 目	特別研究 I		科目区分	専門科目	4 単 位																																				
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・通年																																				
授 業 の 主 題 標 目	<p><b>【授業の主題】</b> 学修・探求の成果論文を執筆するための基礎的知識を修得する。また、2年時に作成する「学修総まとめ科目履修計画書」に準じて、学修・探求の成果論文の構想案を作成する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修・探求の成果論文のテーマの着想に至った経緯を具体的に説明する。</li> <li>・学修・探求の成果論文の目的について、その意義を説明する。</li> <li>・学修・探求の成果論文の手法・手段を具体的に説明する。</li> <li>・学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程を説明する。</li> <li>・学修・探求の成果論文について、得らえると予想される結果・成果の見通しを立てる。</li> </ul>																																								
授 業 の 内 容 進 め 方	<p><b>【クラス分け方式】</b> ゼミナール（略称：ゼミ）を中心に学修・研究を行う。ゼミでは、ゼミ担当教員の指導助言のもと、学修・探求の成果論文を執筆する。ゼミ担当教員の指導の内容・進め方等については、各研究領域の方法による。</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2.</td> <td>オリエンテーション（学位授与制度、履修方法）</td> <td>(担当：専攻科担任)</td> </tr> <tr> <td>3～9.</td> <td>学修・探求の成果論文のテーマ（案）の学修・探求</td> <td>(担当：ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>10～11.</td> <td>学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の作成</td> <td>(担当：ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>12～13.</td> <td>学修・探求の成果論文のテーマの着想（案）の作成</td> <td>(担当：ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>14～15.</td> <td>学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の作成</td> <td>(担当：ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>16～19.</td> <td>学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成</td> <td>(担当：ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>20～21.</td> <td>学修・探求の成果論文中間発表会</td> <td>(担当：保育学科全教員)</td> </tr> <tr> <td>22～23.</td> <td>学修・探求の成果論文のテーマ（案）の修正</td> <td>(担当：ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>24～25.</td> <td>学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の修正</td> <td>(担当：ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>26～27.</td> <td>学修・探求の成果論文のテーマ（仮）の着想の修正</td> <td>(担当：ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>28～29.</td> <td>学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の修正</td> <td>(担当：ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>30.</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない ゼミによって研究・調査のために学外でフィールドワークを行う場合もある。</p>					1～2.	オリエンテーション（学位授与制度、履修方法）	(担当：専攻科担任)	3～9.	学修・探求の成果論文のテーマ（案）の学修・探求	(担当：ゼミ担当教員)	10～11.	学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の作成	(担当：ゼミ担当教員)	12～13.	学修・探求の成果論文のテーマの着想（案）の作成	(担当：ゼミ担当教員)	14～15.	学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の作成	(担当：ゼミ担当教員)	16～19.	学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成	(担当：ゼミ担当教員)	20～21.	学修・探求の成果論文中間発表会	(担当：保育学科全教員)	22～23.	学修・探求の成果論文のテーマ（案）の修正	(担当：ゼミ担当教員)	24～25.	学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の修正	(担当：ゼミ担当教員)	26～27.	学修・探求の成果論文のテーマ（仮）の着想の修正	(担当：ゼミ担当教員)	28～29.	学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の修正	(担当：ゼミ担当教員)	30.	まとめ	
1～2.	オリエンテーション（学位授与制度、履修方法）	(担当：専攻科担任)																																							
3～9.	学修・探求の成果論文のテーマ（案）の学修・探求	(担当：ゼミ担当教員)																																							
10～11.	学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の作成	(担当：ゼミ担当教員)																																							
12～13.	学修・探求の成果論文のテーマの着想（案）の作成	(担当：ゼミ担当教員)																																							
14～15.	学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の作成	(担当：ゼミ担当教員)																																							
16～19.	学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成	(担当：ゼミ担当教員)																																							
20～21.	学修・探求の成果論文中間発表会	(担当：保育学科全教員)																																							
22～23.	学修・探求の成果論文のテーマ（案）の修正	(担当：ゼミ担当教員)																																							
24～25.	学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の修正	(担当：ゼミ担当教員)																																							
26～27.	学修・探求の成果論文のテーマ（仮）の着想の修正	(担当：ゼミ担当教員)																																							
28～29.	学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の修正	(担当：ゼミ担当教員)																																							
30.	まとめ																																								
実 務 経 験 を 活 か す 内 容																																									
テ キ ス ト 材	厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 各ゼミにおいて、研究内容に即して適宜配布する。																																								
事前学習の内容	進行状況により、各ゼミにおいて事前学習についての指示をする。																																								
事後学習の内容	進行状況により、各ゼミにおいて事後学習についての指示をする。																																								
評 価 の 方 法 基 準	学修過程や研究成果をもとに評価を行う。																																								
履 修 上 の 意 注	ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。 ゼミ配属については、希望調査をもとに調整を行う。																																								

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	保育学科全教員																							
授 業 科 目	特別研究Ⅱ		科目区分	専門科目	4 単 位																					
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年																					
授 業 の 主 題 目	<p><b>【授業の主題】</b> 「特別研究Ⅰ」の継続科目に位置づけられる。「研究計画書(案)」(特別研究Ⅰ)にもとづいた研究課題について、フィールドでの質的・量的調査や文献研究等を主体的に行い、独自の研究結果を得て、学修・探求の成果論文にまとめる。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修・探求の成果論文のテーマの背景について、具体的に説明する。</li> <li>・学修・探求の成果論文の目的と意義を具体的に説明する。</li> <li>・学修・探求の成果論文の手法・手段を具体的に説明する。</li> <li>・学修・探求の成果論文の内容を具体的に説明する。</li> <li>・学修・探求の成果論文について、得られた結果に対する考察を行い、まとめる。</li> </ul>																									
授 業 の 内 容 進 め 方	<p><b>【クラス分け方式】</b> ゼミナール(略称:ゼミ)を中心に学修・研究を行う。ゼミでは、ゼミ担当教員の指導助言のもと、学修・探求の成果論文を執筆する。ゼミ担当教員の指導の内容・進め方等については、各研究領域の方法による。 学修成果論文発表会において発表を行い、学士としての能力を養う。</p> <table border="0"> <tr> <td>1～9.</td> <td>フィールドでの調査実施計画 調査方法や調査倫理 調査計画に沿った研究の準備・実施</td> <td>(担当:ゼミ担当教員) (担当:ゼミ担当教員) (担当:ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>10～13.</td> <td>調査結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等</td> <td>(担当:ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>14～15.</td> <td>学修総まとめ科目履修計画書の作成</td> <td>(担当:ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>16～24.</td> <td>学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成</td> <td>(担当:ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>25～26.</td> <td>学修成果発表会</td> <td>(担当:保育学科全教員)</td> </tr> <tr> <td>27～28.</td> <td>学修・探求の成果論文の修正</td> <td>(担当:ゼミ担当教員)</td> </tr> <tr> <td>29～30.</td> <td>学修総まとめ科目 成果の要旨作成</td> <td>(担当:ゼミ担当教員)</td> </tr> </table> <p>定期試験は実施しない ※ゼミによって研究・調査のために学外でフィールドワークを行う場合もある。</p>					1～9.	フィールドでの調査実施計画 調査方法や調査倫理 調査計画に沿った研究の準備・実施	(担当:ゼミ担当教員) (担当:ゼミ担当教員) (担当:ゼミ担当教員)	10～13.	調査結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等	(担当:ゼミ担当教員)	14～15.	学修総まとめ科目履修計画書の作成	(担当:ゼミ担当教員)	16～24.	学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成	(担当:ゼミ担当教員)	25～26.	学修成果発表会	(担当:保育学科全教員)	27～28.	学修・探求の成果論文の修正	(担当:ゼミ担当教員)	29～30.	学修総まとめ科目 成果の要旨作成	(担当:ゼミ担当教員)
1～9.	フィールドでの調査実施計画 調査方法や調査倫理 調査計画に沿った研究の準備・実施	(担当:ゼミ担当教員) (担当:ゼミ担当教員) (担当:ゼミ担当教員)																								
10～13.	調査結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等	(担当:ゼミ担当教員)																								
14～15.	学修総まとめ科目履修計画書の作成	(担当:ゼミ担当教員)																								
16～24.	学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成	(担当:ゼミ担当教員)																								
25～26.	学修成果発表会	(担当:保育学科全教員)																								
27～28.	学修・探求の成果論文の修正	(担当:ゼミ担当教員)																								
29～30.	学修総まとめ科目 成果の要旨作成	(担当:ゼミ担当教員)																								
実 務 経 験 を 活 か す 内 容																										
テ キ ス ト 材	厚生労働省『保育所保育指針解説(平成30年施行)』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説(平成30年施行)』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年施行)』フレーベル館 各ゼミにおいて、研究内容に即して適宜配布する。																									
事 前 学 習 の 内 容	進行状況により、各ゼミにおいて事前学習についての指示をする。																									
事 後 学 習 の 内 容	進行状況により、各ゼミにおいて事後学習についての指示をする。																									
評 価 の 方 法 基 準	授業や研究活動への主体的な取り組み状況、修了論文、学修成果発表会・修了論文報告学修・探究とその成果(論文)に対する成績評価の基準などを基に判断する。																									
履 修 上 の 意 注	発表会の準備、運営は専攻科生の協力のもとで行う。 修了論文の提出期限(提出先:学生部)は、原則として、2年次の1月中旬(別途日時を指定)とする。 ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。																									